276
417

始

26. 9. 27.

1925
そ

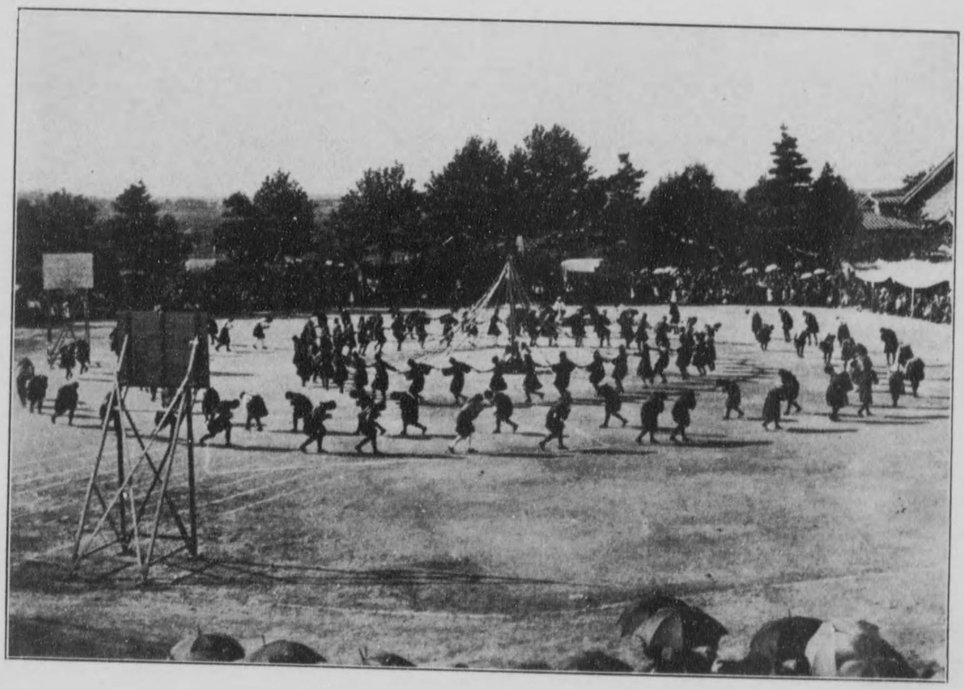
下間芳克著

年齢に適應せる遊戯教育

東京 目黒書店發兌

大正
15. 10. 14
内交

體育舞蹈



行　進　遊　戯

唱歌遊戯

鬼ゴッコ

276-417

序

子供は權利として愛と遊戯との二つを要求すると言ふことを聞いた。いかにも子供が神の手から人間へ渡される迄に神から授けられた、諸々の尊いものゝ芽生えを立派に培ひ養つて行くために、なくてならぬものはおそらく愛と遊戯との二つであらう。然も人の子の親たる者は誰でもが、自分の子供を賢くし、強くするためには如何なる犧牲を拂つても尚且つ惜しまぬものであるから、自分の子供が神から授けられた尊いものゝ芽生えを培ふために要求するものであるならば、それがたとへどんなものであらうとも、どうかしてそれを與へようと努

めるであらう。然るに世の親達が斯くまでに擧つて我がいとしごよ、健かなれ、賢かれ、又幸多かれと希ひ願ふにも拘らず、虛弱者は日々に增加し、低能兒は年と共にその數を增し、性行不良の少年少女は年々增加の傾向を示して居る。これは何と言ふ大きな矛盾であり、且つ深刻な皮肉であらうぞ。

然し斯の如き事實の生ずるや決して故なきにあらずだ。その因つて來る所を尋ぬれば必ずや子供の眞實の叫びを聞き分け得ないで、子供の眞に要求するものを適當に與へなかつたと言ふことに歸して居るであらう。殊に遊戯は從來稍〻もすれば世の多くの親達から、一種の娯樂に過ぎないかのやうに誤り解せられて居たことは子供にとつてどんなに大きな損失であつたであらう。

遊戯は子供にとつては生活そのものであり生命である。子供の心身はこれによつて成育し、これあるがために發達し習練せられるのである。「子供が遊戯するのは幼いからではなく、却つて遊戯するために長い間の幼年期が與へられてあるのである」と言つたのは誠に至言である。又遊戯は本能の表現とその發達とを促すものである。カール・グルース氏の如きは「本能は生存競爭並に種族保存と最も密接な關係のあるものだ。而して若し遊戯の練習と言ふことがなかつたなら、之等の本能は殆んど發達しなかつたであらう」と言つてゐる。本能が生存競爭上陰に陽に重要な役目を演じつゝあることは敢て茲に繰り返

すまでもないことである。然もその本能の發達は遊戯の練習如何によるものであることを思ふときは遊戯の重要さをしみ〴〵感じさせられるのである。然も本能の表現及び發達には各々一定の時期がある。それで或る本能が丁度表現する時期にその機を逸せず適切に培ふときは、極めてよく發達させることが出來るが、若しその機を逸したなら、より大きな力を用ゆるとも到底それだけの効果を收めることは出來ない。これは知的發達に於ても情操の發達に於ても、德性の發達に於ても將又肉體の發達に於ても同樣である。故に之等の發達を促進せしむる所の遊戯には、各發育過程に於て各々特有な種類と指導法とがあるべきである。而して子供は常にそれを要求してゐるのである。

著者は人の子の親となつて我が子を強く賢くさうして幸多からしむるために、我が子の求むる所のものを適然に與へようとすればする程その至難なことを痛感する。併し我が子の前途を思ふときはそれが如何に困難であらうとも出來るだけ努めなければならないので、その參考にもと思ひ、且つは世の多くの親達で著者と同じ望みを持たれる方々、或は多くの教へ子達のために專心教養にいそしまるゝ方々の參考ともならばと思ひ、遊戯に關して淺薄ながら今迄に得た知識を經とし、經驗を緯として織りなしたものが本書である。本書は各發育過程に於いて子供が眞に求むる遊戯とその指導上考慮すべき事柄とに

就いて、子供自身が發する眞實の叫び、自然の聲を寫したいと努力したのであるが、頗る未完成なものである。今後讀者諸賢の御叱正を得て漸次完成の域に近づけ子供の教育上に一大光明を投げかけることが出來るなら著者の喜び之れに過ぎたるものはありません。

大正十五年十月六日

吉祥寺の里にて　著者識す

年齢に適應せる遊戯教育

目次

第一編　理論

第一章　子供は何故に遊戯を好むか……一
第一節　シラー及スペンサーの遊戯説……四
第二節　休養(娯樂)説……九
第三節　カール・グルースの生物學的遊戯説……一三
第四節　スタンレー・ホールの反復説……一五
第五節　マクドガルの批評……一九
第二章　遊戯の教育的價値……二四
第三章　遊戯精神……四九
第四章　教育史上遊戯は如何に取扱はれたか……六九
第五章　遊戯期……一〇三

第一節　遊戯と年齢との關係……一〇三
第二節　遊戯期と發育期との關係……一一四
第三節　第一遊戯期(誕生より七歳迄)……一二九
第四節　第二遊戯期(七歳より十歳迄)……一六〇
第五節　第三遊戯期(十歳より春期發動期迄)……一七一
第六節　第四遊戯期(春期發動より丁年迄)……一八六

第六章　遊戯の分類……二〇五
一、フレーベルの分類　二、シコルスキの分類……二〇六
三、チャブロイルの分類　四、ベレーツェの分類……二〇七
五、カントの分類　六、サグリヴスの分類……二〇七—二〇八
七、ジョンソンの分類　八、グルースの分類……二〇八—二〇九
九、リヒテルの分類　十、コロザの分類……二一〇—二一一
十一、著者の分類　十二、著者の分類……二一二—二一四
第七章　遊戯と社會……二一八

第二編　實際

第一章　體操科に於ける教材配分に就いて……二四七
第二章　競爭遊戯……二五〇
第一節　ボール遊び……二五〇
一、ボール送り……二五〇
二、メヂシンボール送り……二五一
三、對列ボール送り……二五三
四、源平毬入競爭……二五五
五、對列フットボール……二五七
六、ボール合戰……二五八
七、關門通過……二五九
八、攻城ボール……二六一
九、ドッヂボール……二六三
1、シングル、ドッヂボール……二六五
2、タブル、ドッヂボール……二六六
3、混合ドッヂボール(其ノ一)……二六七
4、同　上(其ノ二)……二六八
4、同　上(其ノ三)……二六九

6、兩面ドッヂボール……二七〇
7、變態ドッヂボール……二七三
十、センターボール……二七四
十一、ストライキングボール……二七七
十二、キックボール……二八〇
十三、ソングボール……二八三
十四、インドアベースボール……二八五
十五、ヴアレー・ボール……二〇〇
十六、バスケットボール……二四二
第二節　鬼ゴッコ……二七一
一、動物遊……二七一
二、猫と鼠……二七二
三、日月遊……二七三
四、鶴龜遊……二七四
五、子殖鬼……二七五
六、輪網鬼……二七六
七、子取鬼……二七八
八、ガンバリ鬼……二七九

九、カラカイ鬼……二八〇
十、西洋鬼……二八二
十一、懸リ鬼……二八三
第三節　競走遊戯……二八四
一、旗廻リレー……二八五
二、球運び競争……二八六
三、輪抜けリレー……二八七
四、旗運びリレー……二八八
五、ホップレース……二八九
六、ドリブリング・レース……二九二
七、圓陣リレー……二九四
八、スロー・アンド・キアッチボール・リレー……二九五
九、ポテトーレース……二九七
十、オールアップ・リレー（置換競争）……二九九
第四節　その他……三〇一
一、整列競争……三〇一
二、捕鯨競争……三〇三
三、片脚相撲……三〇四

四、蛙飛……四〇五
五、白兵戰……四〇七
六、達磨落し……四〇九
七、ジアンケン戰……四一〇
八、繩飛び……四一一
九、人送り……四一二
第三章　唱歌遊戲……四一四
一、池の鯉……四一四
二、桃太郎……四一八
三、飛び來るトンボ……四二二
四、アイシーユー……四二六
第四章　行進遊戲……四二九
一、皇國行進……四二九
二、方形行進……四三二
三、十字行進……四三九
四、タロネーズ……四四〇
第五章　體育舞踊……四四一

第一節　步法……四四二
一、ポルカステップ……四四三
二、チエロジステップ……四四七
三、バランス……四五二
第二節　舞踊運動……四六〇
一、圓舞の敎授法……四六〇
二、スプリングダンス……四六三
三、パーンダンス……四六三
四、スケーチング・ダンス……四六五
五。ポルカ(ツーステップ)……四六七
六、マーチポルカ……四六八
七、マヅルカ……四六八
八、ポルカマヅルカ……四七〇
九、ウオルツ(スリーステップ)……四七一
十、ガロツプ……四七二
十一、シヨツテシ……四七三
十二、ライン・レン・ター……四七五
十三、ベルリン・ポルカ……四七七
十四、クロス・ポルカ……四七八

十五、タンツ・フイゲン……四八〇
十六、トサヤマ・サークル……四八六
十七、サーケシアン・サークル……四八八
十八、ラウンド・エバウト……四八九
十九、キューバーダンス……四九〇
二十、カロウヴアチア・ダンス……五〇一
二十一、ノルウエイ・マウンテン・マーチ……五〇三

年齢に適應せる遊戯教育

下間芳克著

第一編　理論

第一章　子供は何故に遊戯を好むか

子供は何故に遊戯を好むか」と言ふ疑問は、「遊戯とは何ぞや」と言ふ疑問と共に其の解決は極めて困難な問題であつて、從來、之等の疑問に答へやうとして努力したものが尠くない。之等の疑問に對して科學的の答解を與へやうとする企ては、所謂、「遊戯説」であつて、從來、幾多の遊戯説の中で考慮を拂ふに値するものが四つある。然し、之等とても完全なものではない。非常に子供を可愛がり、子供の

第一章　子供は何故に遊戯を好むか

遊戯を精細に觀察した彼、シューレー Mr. Sully 氏は、彼の著書「兒童期の研究」"Studies of Childhood" の緒言に、「兒童遊戯に關しては、從來、自信のあるやうな考察が隨分と書かれたが、兒童遊戯の理解は不完全なものに過ぎないと信ずる」と言つて居るが、誠に從來の遊戯說では如何なるものでも、夫々幾分眞とすべき所はあるにしても、未だ遊戯に關する滿足な說明を與へて居ない。

今若し兒童を知るに必要な總ての知識を有する人、即ち生理學、生物學、心理學並に社會學に通じた人があるとすれば、その人は綿密な遊戯說を作り出す資格はあらう。今迄も生理學者とか生物學者、心理學者、哲學者、詩人等であつて、遊戯の研究に價値ある貢獻をなした人はある。然しながら將來に於て此の方面に眞理が發見されるならば、それは哲學者達の研究によるものではなくて、或る小さな子供からであらうと信ずる。即ち、その子供が、母親の胸に頭をつけて、まだ子供の心のやうに純な心の母親に、自分の遊ぶわけを囁くときである。其の時、その母は矢張り大人であるが故に、子供の囁きをそのまゝに受け入れることは困難であるにもせよ、多くの母親にも增して、一層に子供を愛し、子供と共に多くの時間を遊び、更に哲學的思索をなすの餘暇を持つ母親があるならば、其の母親によつて教育上價値ある遊戯說が作り出されると共に、人間教育の上に一大革新時期が畫せられるであらう。

兎に角、從來、完全な遊戯說はないが、遊戯說としての最初のものは、現今でも知られてゐる。シラー Schiller 及びスペンサー Spencer の說である。此の說は或は、勢力過剩說とも言はれ、遊戯の常識的說明に及んでゐるので、遊戯說のうち最も評判のよいものである。此の說は斯界に於ける嚆矢である上に、遊戯について僅かの考察をしかしない人々の十中八九は此の說を懷くのである。「子供は何故遊ぶのか」と言ふ質問を誰かに提して御覽なさい、その答は次のやうなものでせう、「子供は遊ばねばならないから遊ぶ、子供は猫の子、犬の子のやうに、あり餘まる勢力を働いて費さねばならぬのである」と。之れは言はゞ科學的術語を離れた、シラー＝スペンサーの說であるが、此の說は初めも輕んぜられてゐたし、現今でもこんな答は餘り

雜作なさすぎると考へられてゐて、斯界に重きをなしてゐるものではない。これから各遊戯説が此の疑問に對してどんな答解を試みてゐるかを考察することにしやう。

第一節　シラー及びスペンサーの説

The Schiller-Spencer Theory.

シラーは彼の著書「美的教育に就いて」"Letters on Aesthetic Education" に於て次の如く言つて居る。

『獅子は飢餓を感じないとき、又は餌食となるべき他の動物が挑戰しないときには、彼の消費しないで蓄へられて居る勢力は、その排出口を見付け出して、原野も轟くばかりに咆吼する。獅子の横溢しきつた勢力は何等目的もないことを演じて喜んで居るのである。動物の働くのは何か必要にせまられて、それが活動の原動力となるときで、遊ぶのは、横溢した勢力が動機となるときである。』と

又、ハーバート・スペンサー Heabert Spencer は「心理學の原理」"Principles of psychology" の「美的情緒」に關する最後の章で次のやうに指摘して居る。

『下等な動物は生命を保持するに必要な機能、即ち食物の求索、外敵の防禦とか言ふことを實行する爲に、彼等の勢力を消費せねばならぬが、人類は斯る手數を省かれて居るから、その過剩勢力は衝動其自身を滿足さす爲に消費されるのであつて、別に他の動機を以てゐるのではなくて、その衝動其自身が目的なのである。從つて兩親の保護を受けてゐる若き動物や經濟的壓迫のない人は遊ぶのである』と

シラーもスペンサーも兩氏共に美學に就いて述べて居るので、彼等の目的とするところは、如何にして美の情緒が遊戯衝動より生ずるかを示さんとすることであるが、吾人に關係のあるのは、子供は何故に遊戯を好むかと言ふことの説明であつて、此の點に關しては、スペンサーがシラーより深い研究をして居る。シラーは、此の説明を過剩勢力の出現であると言ふに過ぎないが、スペンサーは一歩を進めて、模倣が過剩勢力の流を一定の脈路に導くことを指示してゐる。是等の脈路とは動物の生活中最も重要の部分を形成する活動を言ふのである。

スペンサーは、勢力を費消するやうな重大な活動のないときには、その代りに模

倣活動が行はれるのである。是れが即ち遊戯である」と言つて居るが、之れは論爭の的となつた點であつて、グルース Groos 教授が「非常に若き動物や子供の最も模倣的な遊戯すら毫も模倣と言ふことには關係しない」と指示したのも此の點である。小兒の實驗や、小兒初期の運動は自然的のやうに見える、巣の中で飛ぶ稽古をする雛檻の中に生れたカモシカが、他のカモシカの跳ぶのを見たこともないのに、六週間もたつと跳ばんと努力する如きはその例として引用せられて居る。木綿の糸車を追ひ廻す子猫は、恐らく今迄にまだ餌物を見たことはないのだが餌を追ふ眞似をしてゐる。此等の動作は疑も無く、現實に對する理想的滿足の代用である、然しながら模倣によつて刺戟されたのだと言ふスペンサーの説には贊成は出來ない。此の場合子猫をして絲車を追ひ廻す何か動力とも言ふべきものがないだらうか。此問題を決定するのにグルース教授は動物並に子供のために次の如く言つて此の論點を設定して居る、即ち「子猫は豫告によつて衝動されるのである、自然は子猫に鼠を捕へる準備の努力として糸車を追ふ希望を與へたのである。而して總ての遊戯は才能を練磨するための豫備運動である。即ち將來の人生の準備である」と。

然らば、吾人は勢力過剰説に依りて何を得たか。其れは確かに顧みられる程のものではないかも知れないけれども、幾分は眞理の要素を含んで居る。其れは生理的事實であつて、神經流が抵抗の最も少いところに沿ふて放出せんとする傾向はスペンサーの原理に一つの眞理を認めるものである。即ち、スペンサーの説は模倣に關しての説明は誤つて居ても、過剰勢力の排出は動物の生活の重要部分を占めて居る活動に向けられるのである。例へば、鼠の子が物を嚙んだり、又犬の子の群が何の目的もなく、唯走り廻るのは過剰勢力が、神經流の比較的よく通過し馴れた經路に沿ふて放出されるのだと言ふことに依りて説明されるであらう。

けれども、此の理論を子供に當てはめて見ると、此の説の弱點がすぐわかるのである。即ち、此の説の缺點は、知的方面を等閑に附して居ることである。此の假説によつて説明のつく子供の遊戯はほんの少しだと言ふことがわかる。然しシラ

ー＝スペンサーの說が、遊戯の知的方面を全然顧みてゐないと推量してはならぬ。シラーの說をいま一度引用すると、「人の肉體的機關に自由に運動する機會があると同じく、又想像力もその自由な活動並に身體的遊戯を有するもので、想像力は形式の如何に拘らずして、自由な動作とか遊戯とかを享樂するものである、それ故に想像力及自由性を使用することによつて、單に快樂を感じて居る」と。

けれども、假令吾人が心身の勢力過剩と言ふ理論を認めて、「遊戯は心的並に身體的の力の横溢を同時に消費することだ」と言ふ、ジェン・ポール・リヒター Jean poul Richtea に從ふとしても、吾人は子供は何故に遊戯を好むかと言ふ說明をよりよく進めて居るとは言へない。疲勞に關する最近の研究によれば、肉體的疲勞は、少くとも或程度まで心的疲勞を含有するものである。然しこの逆は必ずしも眞ではない。子供をよく觀察すると、彼等は疲れたときでもよく遊戯をするものである。余が或る貧民窟を訪れたとき、子供達は榮養は充分ではなく、適當な睡眠もとつてゐないので、學校から歸つて來る頃は眼はぼんやりとし、顏面は蒼白で緊張して居らない、全身はだらりとして、すつかり疲れてゐてどんな遊戯も出來ないだらうと思ふとそうではない、荷物を置いて外に出ると、いかにも朝起き出でた元氣な時でもあるかのやうに走り廻り遊び戯れるのを見た。これは子供の遊戯を仔細に觀察した誰でもが見るところであらう。斯くの如く子供は屢々疲勞の點に達してからも長時間遊戯を繼續するのである。是等の事實は、此のシラーの說の反對を物語るものである。シラー及スペンサーの說明は子供の遊戯を說明する上に於ては、過剩勢力は遊戯の好都合の條件であると言へば無難であつて、此の說からこれだけの眞理を採り出すことだけは安全である。吾人は次に、シラー＝スペンサーの說の反對說として時々引證される說明を簡單に考察しよう。

第二節　休養(娛樂)說 The Recreation Theory.

かつて伯林大學哲學教授であり、「遊戯の刺戟」"Die Reize des Spiels" の著者である、故モーリス・ラザルス Möritz Lazarus は、此の說の重なる代表者である。一見此の說は、前に述べた說と正反對のやうである。彼の議論は、知力、體力が疲勞したと

きには、人間は之を恢復せんとして遊戯するものであると言ふ。

勿論疲勞の程度は、休息や睡眠を必要とするやうに、精神消耗を來すやうなものとは考へないのである。然し如何なる場合でも、前の說は過剩勢力を遊戯に費消すると言ふに反し、此の說は、遊戯は勢力の恢復者でないとしても、保存者であると信ずる。此の說の眞意は、遊戯を一つの制限された見界に於て考へる時にのみ判然として居るのである。例へば、終日役所に居て頭腦が疲勞して居る、多忙な都會人はテニスやベースボールによつて、勢力を恢復し得るであらう。遊戯が休養となり娛樂となることは何人も疑ひを容れないが、休養や娛樂の必要が遊戯の滿足な說明とはどうしても受けとれない。實際此の說は、頭腦の疲勞したとき、然もそれが過度の疲勞でない限りは、仕事の轉換。殊に肉體的運動は或程度迄精神力を恢復するものであると言ふことを提示したに過ぎない。反對に肉體が疲勞したならば、心的動作は自然、精神力の消耗を補ふことは出來ないことになる。何となれば、既に述べた如く知的疲勞は肉體の疲勞如何に依るものであるからである。

斯くの如く此の說を吟味して行くと、此の說の適用の範圍は頗る制限せられて居て、子供の生活が殆んど全く遊戯である以上、殆んど子供には適用出來兼ねる說である。更に又此の說は仕事と遊戯との明瞭な區別を推定して居る。子供には斯る區別はなく、寧ろ彼の仕事は遊戯であり、遊戯は又仕事であると言ふべきである。故に此の說は重に成年者に適用する說であつて、遊戯を肉體的休養であるとする特殊な又制限された解釋である。然しながら、シラー及スペンサーの說と和合しないと言ふことはない。何となれば、終日精神勞働をした後テニスをする人々は、同時に又過剩の肉體的勢力を放散し、娛樂に依りて心的勢力を恢復するから。此の兩說は補足的のものである。而して午前と午後との授業の中間に於て運動場に開放される子供が走り廻つて遊ぶと精神的の勢力を恢復して午後の授業に適する樣になる。其れ故に頭が疲勞し肉體が長く活動しなかつた時に、肉體運動の必要を滿足されると其れが頭にも影響して疲勞を緩和するものだといふことは此の說から得られるのである。此れ等の說はこれまでに遊戯に關する生理學

的說明をなした總ての說を代表し、これ等の說より得られる總ては次の二つに言ひ表すことが出來る。即ち精神の輕度の疲勞は遊戲によりて恢復せられるし、仕事の轉換より生ずる快樂は遊戲を行はしめる原動力となる。

第三節　カール・グルース Karl Groos の生物學的遊戲說 Biological Theory

シラー＝スペンサーの說を詳細に吟味した後、グルースは、彼の著「動物の遊戲 "The Play of Animals" に於て、前者の說に反對をしなければならないと言つてゐる。殊に一種族の各個人は彼等の種族間に流行してゐる遊戲表現の獨特の形式をなしてゐるし、動物の各種族の遊戲は夫々異つてゐると言ふ事實を說明するには、勢力過剩說は不充分であることを見出してゐる。幼獸の自發的遊戲中には彼等が嘗て見たことのなかつた行動が無數にあるからして、勢力過剩の概念と模倣の概念とを連結しても、是等種々なる場合の說明は出來ない。即ちシラー＝スペンサーの說は遊戲に關する總ての事實に亘つて說明し得ると言ふものではない。そこでグルース氏は遊戲の衝動に或る、より强き、而して、一般的な動力を發見せんと企て、遂いに其れは本能にあることを發見してゐるのである。

不幸にして本能と言ふ語は、心理學上曖昧な名辭であつて、吸乳作用の如く現代の人々が純粹の反射と考へる幾多の動作又は、鳥類の築巢の如き經驗並に訓練の事象と判明したる種々の動作を說明するのに、過去に於ては此の本能と言ふ語を使用したのである。

人類並に他の動作に本能のあると言ふことは、勿論議論の餘地の無いことであるが、本能の起原といふことは未だ論爭の問題である。此の點に於て、グルースは獲得性に關するラマルク流の原理 Lamarckian Principle を不問に附して、新ダルヴィン派 New-Darwinists の說を採用することが賢明と考へたのである。彼はヴィスマン Weismann の流を汲んでゐる、ツィーグル Ziegler の說に研究の歩を向け、本能の說明に於て自然淘汰のみを進化の原理と考へることに於て一致してゐる。「本能は複雜なる反射作用だ」といふスペンサーの定義を採用し、單純な作用が時の經過するに從つて本能的な複雜な反射作用として發達すると言ふことを論證してゐる。

そこで、グルース氏の說に從へば、本能は生存競爭並に種族保存と最も關係が深いのである。而して、若し遊戲の練習と言ふことが存在しなかつたなら、此等の本能は殆んど發達しなかつたであらう。下等動物には確かに若干の複雜な本能運動がある。而して、その本能動作は其の動物の生存には必須のものであり、何等の練習なくして遺傳的機械的に行はれるものである、然し、子供の本能の發現する最初は他の動物のやうに發展してゐないで、不完全のものとして現れるのであるが、漸次、本能が發達するにつれて理知並に道德的性格が發達するものであると考へ、然も遊戲を本能の最善であり、又自然的の訓練場であると考へて、遊戲に重要なる生物學的意義を認めたのである。そうして彼は次のやうに言つてゐる。即ち「人類の幼年期は比較的長期間であるが、之は人類は他の如何なる動物よりも高級の發展に到達しなければならないからである。子供が遊ぶのは彼等が幼少なるが爲ではなく、却つて彼等は遊ぶがために幼少なのである」と。

扨、グルース氏の說を概括すると次の如くである。即ち、遊戲の起原は本能に存するのである。本能が幼獸に現れるのは、彼等が本能をそれ程迄に必要としない時であつて、本能は遊ぶことに依りて發展するのである。斯くの如く遊戲は才能發展の豫備練磨であり生活の準備である。從つて、幼獸は遊戲によつて才能を練磨發展せられ、生活能力が養成せられるのである。

然し人類の場合に於ては、此等の本能が直接に生活の充分なる準備ではないと言ふことは明瞭である。而して、子供はその各個人の要求に適應される幾多の能力を模倣により、經驗により獲得しなければならない。此等の能力には種々ある、又遺傳されるものもあり、最も完全な本能をも凌駕するやうな發展の可能性もあるものであるが、是等の能力は遊戲によりて獲得されもし發展をもするのである。

第四節　スタンレー・ホールの反復

Dr. Stanley Hall's Recapitulatory

ホール氏はグルース氏の遊戲の生物學的說明を「部分的であり、皮相的であり、而して偏頗である」と評してゐる。彼は「グルース氏は遊戲を子供が將來成人となつたとき活動するための練習だと呼んだときは、既に過去を無視してゐるのだ」と、非

難してゐる。若し之れがグルース氏の遊戯なる題目に對する所說の總てゞあるとすれば、此の批評は正當なものであるけれども、之れが彼グルース氏の所說の總てではないから、之れを以て彼の說全般に對する正當な批評だとは言へまい。それのみならず、ホール氏は「遊戯を好んで行はせる所の心的動機或は衝動は吾々の祖先が、彼等の習慣的活動を吾人に傳達した形式である。その衝動により一階段一階段と吾々は吾々の祖先の生活を再び表現するものである」と言ひ、ジョン・アロスミス Mr. John Arrowsmith 氏は兒童研究者の立場から彼ホール氏の見解に贊成して、「子供は遊戯に於て穴居時代の人類の動作を齎らすもので、その遊戯は表象的象形文字の一體系である、子供は遊戯に於て太古その種族に肝要なりし動作を繰り返へすのである」と。言つてゐるから此の說にはグルース氏の說に全然矛盾するやうな點はなさそうである。

又、ホール氏はあらゆる遊戯を「本能に遺傳の加はれるもの」とし、「遊戯は遺傳の最も純粹なる表現である」と言つて居る。又、遊戯は將來有益なる可き事をなすので

欠

子或は女子を造るべきあらゆる才能とあらゆる感情とを以つて完備した生活であると言ふことが出來る。而して、選擇の自由とか、判斷力の練磨とか、心身の不斷の活動とか、爭鬪の利不利とか、團體遊戯より學ぶ社會的精神とか本能の滿足とか、或は自己の自由なる表現に伴ふて生ずる愉快等は遊戯の持てる尊き人格構成力である。確かに教育は教室内の教授の事柄に關すると共に、一方運動場に於ける是等の遊戯の指導に關係することが甚大である。

第三章　遊戯精神

遊戯精神は限定し、解釋し得るものではない。そは精神の態度である。換言すれば、遊戯精神のことを敍してゐる時には、主觀的見地より觀たる遊戯の事を記してゐるのである。

遊戯が子供に如何なる意味を有するかといふことは、正確には知り得ない。それは丁度甲の人が乙に向つて、乙の心にあることが正確にわからないと同樣であ

欠

る。然し乍ら、吾々大人と雖も、現在は遊戯精神を子供に手渡しこそして居るが、嘗ては、我々もその所有者であつたのである。育兒室に於ては、昔と同樣に玩具が今も尙その務めを果して居る。然しながら、吾々大人にとつては、搖木馬は色を塗つた木で造つた、キーキー軋る詰らぬものに思はれ、玩具の兵隊さんは生命の無い鉛に過ぎない。吾々は誰も彼もが大きくなると遊戯の世界を去つて、事務所の机や、俗務の世界に入らなければならないかと思ふと悲しい事である。然し乍ら、子供の時と同じ色彩で人生を視ないかも知れないが、後年に到りて、遊戯精神の何物かが吾々に殘るべきである。兒童期の喜悅、空想は丁度砂の上をたどつて行く時の實質なき形のやうなものである。吾々の多くは、生活に直接緊要な事柄に關して潮が益々高まつて行くと、子供時代の喜悅、空想の記憶は直ぐ忘れて仕舞ふものである。二人の姉妹がお人形を持つて濱邊で遊んでゐたのを見たことがある。妹(九歲)は自分のお人形に石を御馳走するのに忙しくして居たが、姉の方は前に遊んだ「乳吸ひ遊び」の面白かつたことを思出して、一つの石を拾つてお人形の口の所へもつて行くと、急に失望落膽し、不快の顏付をして、石を海の中に投げて仕舞つた。彼の女の幻想は終つたのである。そうして潮は滿ちつゝあつたのである。然し乍ら、空想的遊戯から生ずる强い快感は、深い印象を與へるもので、かゝる遊戯に對する興味は、その潮が滿ちたとき、即ち、成年に達した時でも、殘つて居て、一生涯存在してゐるものだと言ふことは否定し難い樣である。かくの如き大人は貴いものを所有してゐると言つてよからう。それは彼等自身にとつてのみならず、社會にとつても貴重な所有物である。それを吾人は遊戯精神と呼ぶ。

遊戯精神とは吾人が大いに力說したい言葉である。何となれば、之れは遊戯に關する誤つた見解に反對する意を含んでゐるからである。吾々は遊戯、殊にその利益に關して、それを肉體的のものだと大變長く考へてゐた。此れは間違つてゐる。眞の遊戯は精神的のものである。遊戯をするのは精神であつて、遊戯が精神發達上に及ぼす効果は大なるものである。

遊戯の模範的なものは、知的自由の大氣內に於て自覺的では無く、本能的に理想

の追求に向けられる。シラーが、人は正しき意味の人間である時にのみ遊戯をする。而して、遊戯する時のみが完全なる人類である」と、言つてゐる。誠に遊戯に於ては、高尚なる德性は修養せられ、精神は擴大せられるのである。

前述の如く遊戯精神に就いて書くのは、一見地即ち、子供の見地から遊戯其れ自身を書く事である。「遊戯は人生に對する子供の態度であつて、彼等の行爲は其れより生ずるのである」といふのは、子供の遊戯を定義したものとしては當を得たものである。換言すれば、遊戯は何か特別の活動よりは寧ろ、子供の完全なる道德的並に知的態度を示すものである。デューエー教授は「遊戯は子供の心理學的態度を示すものであつて、彼の外部の演出を示すのではない」と言つてゐる。遊戯は子供の明瞭なる活動であり要素である。子供は第一に自己を實現するのである。此の必然的に限定された範圍の見解以上に正確な遊戯の定義は見出せない。

然らば、遊戯精神とは子供の道德的並に知的態度であり、單に、遊戯に對する態度のみならず、人生に對する態度である。此の道德的並に知的態度は何であるかと言ふに、其れは、自覺せる自己幻影の精神である。即ち、平たく言へば、模擬の精神である。此の精神は兒童期を通じて、又少くとも十歳若くは十一歳迄は勢力を占めてゐる。遊戯の快樂の源泉は種々あつて然も個性的であるからして、此等の源泉を箇條書にしようとするのは、殆んど望みなきことであるが、一般的のものゝ若干を擧げると次のやうである。

(一)、本能の滿足、此の上に若しもスタンレイ・ホール博士に倣ふならば行爲より生ずる快樂は、行爲の强さに比例して强いといふことを附加する。

(二)、力能の感情若くは原因たることの喜び。

(三)、成人に支配せられることのないことより生ずるのではなくて、調和せる自己創造の世界にゐるといふことより生ずる自由の感情。

(四)、實驗的遊戯の無數の種類を通じての經驗の擴大。

(五)、自覺せる自己幻影、即ち、模擬の快樂。

(六)、熟練の獲得、競爭の感情、組織されたる遊戯より生ずる種々の第二次的快樂。

此等の中、(五)が可成り強いものゝ樣に思へる。模擬に於て子供の見出す快樂は別として、模擬は子供には必然たると共に、又避け難き道德的並に知的態度である。模擬は人生に於ける子供の支柱であつて、其れ無くしては彼は人生の行路に於ける哀れな跛の旅人となるだらう。或る兩親並に敎師がお伽話や、桃太郎に關する正しい考へ方を、子供に考へさせようとする努力を判斷して見るに、子供に關する價値の見解は一般的には評判はよくない。子供を喜ばす爲には、事物は眞實の物よりも寧ろ、お伽の國がよい。かゝる子供には、お伽のお城は理想的のお城である。無情な物質主義より逃れて、一股で七里も行けるやうなお伽の國や、杖を一度振れば、敵勢が蛙や、とかけになつたり、味方が宮殿や貴重な寶石の御褒美を貰ふお伽の國に、逃れ行くことの出來ることは、子供に如何なる意味を有するかを考へて見たい。若しも、吾人は子供に從つて、お伽の國へ行くことが出來なくとも、少くも、子供を唯一人でお伽の國への旅へ遣すことは出來る。お伽の國へ行くことの出來ない、偶像破壞者は子供の世界に就いての小さい、又未熟の知識のために、子供の精神發達を防げてゐることが少くない。

遊戯の模擬に就いて言へば、たとへ、それは單調であるとしても畢竟するに、子供の想像力の自覺せる生產であると思はれる。成程、スティヴンソンの言へる如く、子供の想像力は幾らよく言つても單調なる空想であつて、大人の才能とは非常に異つてゐる。即ち、外部より刺戟を受けた感覺の印象や、對象や、場所の記憶に依りて刺戟されたる、他の感覺印象に働き及すことである。子供の想像は兒童期の不分明なる感覺に依るもので、觀識と像とは混同されるが、とくと考へて混ずるのでは無い。そして、其の結果は想像の高飛として吾人を驚かす。子供は物と物との間の類似點を認めるのに恐しく鋭いが、又一方、物と物との差異に關しては之と正反對に鈍感であることは驚く程である。小さな子供は、キラ〳〵したるランプの圓い球を指して、「あれ月が！」と叫ぶ。その子供は、その類似點にすつかり驚いて仕舞つて、昨夜見た像と今見てゐるものとを混同してゐるのである。然し、之は自分の戀人の眼を二つの大きな湖に譬へた詩人の行とは本質的に異つたものである。

親達は何時でも自分の子供等の言つた價値ある虚僞を引用するものである。然し創作的空想は子供より期待することは出來ない。彼等の才能は生氣を與へ、容觀化することであるが、彼等の制限されたる貯へよりは創作をすることは出來ない。事實は大人の標準より判斷すれば、子供の想像力は極めて不充分なものである。それは世界の事物に關する、極めて狹き子供の知識から考へて見れば、當然な事である。それで、子供の遊戯は殆ど總ては模倣である。幼兒は自分の聽手を喜ばさうとする本能、若くは、親切なる氣分で模倣するかも知れない。大きい子供になると、年長者が遊戯の材料を給する時には、年長者のより以上、繪の如き行動を模倣する。然し、幼い子供の模倣遊戯の大部分は人生に於ける經驗を擴大する方法に依つて企てられる。『子供は自分の模倣することを理解せんと努めて居る』。彼は馬の眞似をして、馬になつたらどんな感じがするだらうといふことを理解しようと努める。此の特徴は十歳以下の總ての子供の遊に現れて居る。子供の想像力は實際行つて見なければ劇的遊戯の如き何か詳細なものを供給するのには不充分である。育兒室といふ海を横ぎる荒き航路の胸の轟を得んためには、彼等の理想的感情の要素を搖り動したり、支給したりする船がなければならぬ。子供の想像は、陽炎より織出されるのではなくて、寧ろ、實在の健固なる木釘から成立つのである。吾々が子供の手に渡す玩具に關して、象徴主義に基く全く極端なる強い言方をするならば、『子供に機械的の玩具を與へる事は彼等の爲に遊んでやるのと同じである。子供に簡單な煉瓦の箱を與へよ、然らば彼は遊ぶものである。』子供は眞實の物と一緒に遊び度いと思ふのである。而して事物の眞實でない他の總ての方面は、子供は無視し度がる。お伽の國でさへもそれを想像するときはそのお國が眞實なものになるやうに子供は局限するものである。是に對する正しき解釋の仕方は、遊戯は子供の生活である如く、環境の單純なる事物は遊戯に對して、最善の材料を供給するのである。模擬の能力では、お伽の國を作ることは出來ないが、理解されない世界を理解される遊戯の世界に變形する爲に役立つてゐるのであつて、子供は年長者が矛盾するやうな說明を爲しても疑問を懷かない。子供は

それに疑問を懷くやうになる迄は完全に幸福である。

模倣若しくは自覺せる自己幻想の快樂は、藝術の創作及び鑑賞の快樂の基調である。コンラッド・ラアゲルに依れば、藝術とは「自己及び他人に自覺せる自己幻想に基ける快樂を供給し得る人に依りて、所有せられたる能力である」と。自己幻想の狀態は美的享樂の高級なる形式の特徴である。美的鑑賞（カール・グルースの說に從へば此れは內部模倣の如何に依存するといふことだが）は美的創造が遊戲に似てゐると言ふよりは寧ろ、其れ以上遊戲に接近してゐる。

理想的に言へば、藝術的作品は、創作者の自我を表現するものとして、又理想に向つて努力し、二次的の動機を含まないものとして、彼等自身のために創作されるものである。必然的に經濟的壓迫より逃れることがなければ、子供の遊戲も大人の藝術も發育不完全の階段に墮落する。然るに、文明は社會的遺傳だと名付けられる媒介物に依りて、吾々に修養の平衡を齎らした。而して、その標準は、藝術家に必然的の獨立を拒むと共に、藝術を吾々に供給するものである。從つて藝術を活計として持つてゐる。その事情の下に、概して言へば、藝術は遊戲的にならずして、屢々藝術と呼ばれる仕事となるものである。

藝術家の自己表現の本來の手段を奪ひつゝある近代の工業主義の之れと同じき狀態は、何時かは遊戲に於ける子供の自己表現の方法をも奪ひつゝあるが、幸にも教育當局は遊戲なき教育は如何に悲慘なるかに眼覺めて來つゝある。

藝術と遊戲との關係に立戻つて話すと、藝術の鑑賞と遊戲の快樂は前述の如く模倣の遊戲精神若しくは、自覺せる自己幻想の如何に存してゐる。美的創作に關しては、是は一般に美學に關する著者に依りて、遊戲より生ずると考へられてゐる。自己表現の最初の形式は恐らく音樂と舞踏であつたであらう。かゝる音樂と舞踏とかいふ遊戲的實驗練習は、兒童期に於て自覺的藝術に發達する。疑もなく叙事詩や繪畫の藝術は同樣にして生ずる。

美的創作に強く現れると共に、遊戲に於て強く現れる模擬の快樂の外に、吾人は遊戲並に美的作品に模擬的なる他の快樂を求めることが出來る。それは實驗模

倣並に、原因たることの快樂である。其れを愛するが爲めに遠望を描く藝術家、又砂城のヨロ〳〵した塔に一石一石加へる子供、之等は共通の快樂を持つてゐる。即ち、兩者の創造的活動を精密に吟味すればする程、兩者は益々密接に快樂及動機に於て一致する。遊戯幻想の現實を指示する爲めに多言したが、其れは自覺せる幻想であるといふ事實を見失つてはならぬ。

子供は彼等の模倣遊戯に於て、彼等の想像は誠實な信念に達するものと多くの人々から信じられて居る。吾人は左樣かも知れぬとも思ふが、又一方其んな事は極めて稀で、決して遊戯の享樂は、本質的なものでないと信ずる。子供は己の遊ぶ所のものを總て、完全に感じ味ふんだと局外者が考へるのは、俳優に就いて同樣の事を想像すると等しい。子供が其の遊戯を眞實なものだと信ずると推測するのは、快樂の源泉だけに關して言へば、藝術と遊戯との關係を破壞するものである。幸にして、子供の遊戯に關する觀察の多くは、例へば、お人形は生きてゐるんだと子供が信ずる」といふ見解を非難して居る。子供がお人形に食物を與へ、着物を着せる時には其は確に自覺せる自己幻想であるが、其でも矢張、幻想であり、快樂である。現實と不可能との間の振搖の驚く程の才能を子供は持て居る。ザリの書「兒童期の研究」から二つの話を引用すれば、子供の態度を指示するのに充分であらう。始の話は女の子に就てである。母が女の子のもてあそんで居る人形の起原に關して幾らか話をその女の子に言つて聞かせると、その子は答へて「靜に、かあさん私は一生涯そのお人形が生きてゐないといふ事をそのお人形に知らせまいと努めて居たんです」と。次の話は五つの男の子に就いてである。彼は忙しく店屋事をして遊んでゐるとその母が急に部屋に入つて來て彼を抱上げて接吻をした。彼は啜り泣いて「おー、おかあさん、店の人に決して接吻してはいけませぬ」。此等の二の話に於て子供の精神狀態が正しく分る。子供はどれ程、自分で自分を欺いてゐるかはよくは解らないかも知れんが、遊ぶ可き遊戯に於いて、彼は自分の目的を果さねばならぬといふ事實は正しく自覺してゐる。然し乍ら吾人が注意深くすると、お人形は生きてゐるんだと、子供が實際信じてゐること、若くは、假令、ほんの一時で

あるにせよ、自分は食人者の酋長だと信ずるといふことを示す證據を得ることがある。其は主として、神經質の極めて感情的な性格の所有者の詳細な自叙傳には屢々見られる。吾々は其を疑ふ必要は無い。非常に想像的で神經質の子供は容易にかゝる妄想の狀態に落るかも知れないが、かゝる狀態は大人に取て不自然なと同樣子供に取ても自然では無い。要之、此の現象は催眠的である。然れば、遊戯精神とは創造的活動の精神であり、模倣の精神であつて、子供に取ては、快樂の重なる源泉である。畫架に向ての藝術家が骨を折るとき、左程仕事の苦さを感ぜず又骨折仕事をも快樂とするのは、之と同じ遊戯精神である。仕事の爲に仕事の企てられない今日に於ては、仕事といふ語が賤しい役の名稱であり、苦しいことの名稱となつた今日に於ては多くの遊戯精神は缺乏してゐる。子供に取ては、遊戯と仕事とのはつきりした區別は無い。吾人がその區別を置いて之を強めるのでなければ、子供等の爲にかゝる境界線の存する理由は無い。不幸にも遊戯といふものの意味の違つた概念の爲めにこんなことは正しく吾々が區別するのである。即ち、遊戯は怠惰に等しいとの解釋から誤は生ずるのであるが、之れは全く眞實とは正反對である。尙、進んで今日は多くの仕事が、第二次的の動機で行はれてゐるからして、賤しさ、苦しさ等は仕事の明瞭な屬性となつた。遊戯は遊戯其のもののために耽るので、自由に選擇し得る境地にあつて、やむにやまれぬ欲求からそれを行ふのである。それには自然、興味や快樂が伴ふのであるが、興味や快樂が伴ふのでは、選擇するのではなく、自己表現の强い欲求から選擇するのである。遊戯は興味や快樂のみが伴ふばかりでなく、常に又子供の辛抱、忍耐、注意の集中及熟練等を深刻に要求する。それは彼等にとつて可なりな困難であり、苦痛を伴ふものである。若しも彼等が遊戯に於て是等の性質を練磨する習慣を養へば、後年に到つては是等の性質を自由に操るやうになる。それ故によく遊ぶ子供はよく働き得る筈である。隨つて遊戯に於て困難に打ち勝つことに快樂を覺えたる子供には困難な仕事も歡迎される。不幸にして世界の多くの仕事は文明の爲めに、詰らぬ賤しい力役に墮落して仕舞つたのである。吾々が仕事のために仕事が出來ず第二次的

の意義に於て强制の下に仕事をせねばならぬ程人生に於ける慘劇は又とないであらう。これが現代青年の性格を損ね偏狹な思想を抱かしむるに至ることはけだし甚大であらう。或學者の言へるやうに若し世に偉人と稱せられる人にして其の一生の事業に對して遊戯精神或は自己表現への欲求がなかつたなら、彼等は果して其の事業を成遂け得たかどうか甚だ疑はしい。誠に人生に價値ある事業を成さしめ更らに人生を淨化するものは愛と欲求とである。子供が遊戯精神即ち、最も無意味の仕事をも何等か價値あるものに變形する精神を必要とするのは此處である。グリントンGrintonが言つたやうに「作業の價値は其れが含有する遊戯の量によつて計るべく、遊戯の價値は又其れが含有する作業の量によりて計るべきである」此の言葉の中には諷刺などから得られるより以上の眞理がある。遊戯はそれをなすに當つて吾人の全身全靈を打ちこんでするもので、その苦しみにもつらさにも喜んで當ることが出來るが、所謂仕事なるものは第二次的意義に强制せられて身心の一局部の努力を要求するもので、充實した仕事の出來ないのみならず身心を損ふことが少くない。

或る子供が雜草を刈ることを他の無意味な仕事と同樣いやがつてゐたが、信賴すべき權威者がその子供に命じて「砂利道に生えてゐる雜草は外國の軍隊であるから、我が國の師團に命令してこれと戰爭し、此の軍隊を撲滅なさい」と言ふと、その子供は朝早くから起き出でて、臺所の古い庖丁で一本の根も殘つてゐないやうに草を刈つてしまつたと言ふ話がある。

かゝる狡猾手段が子供に長い間役立たないとしても、或る時期役立つたと言ふことが後々までもためになるのである。若しも、その子供が雜草を攝むことは恐るべきことでないと言ふ精神を保つて居りさへすれば、例へ、仕事を仕事そのもののために愛さなくとも、少く共其の仕事を恐れることはないであらう。或職工が工場に働き極めて精緻な器械を作りそれは計量器を以て計ることの出來ないまでに精緻を極めて居たので、その理由を尋ねると別に工場主からの命令でもなくこれと言ふ必要でもなく、唯自己の欲求からであると答へたと言ふ話がある。此

の欲求こそ彼をして仕事を樂しましむる原泉であり、又世界人類の上に殘された偉大な事業を成し遂げしめた原動力であると考へる。

吾々は子供が遊ぶとき興味の心から、否、やむにやまれぬ欲求から有益なことをするやうに訓練することが大切である。斯くて後年に到つて有益な仕事をする際に、興味の心から面白がつてするやうにしたいものである。「仕事もよく成し遂げようとすれば、遊戯と同樣に自發的の興味が必要である」と論ずる人々があるが、之れは前に掲げた實例と共に遊戯精神の多くは吾々の仕事に於ても大切なものであると言ふ吾々の主張を裏書きするものである。

私は嘗て飛行家に飛行なんかする譯を尋ねたら「それは無論面白いからです」と答へた。此の世界の有益な仕事の多くは斯樣な精神で企てらるべきものであると吾人は感ずる。遊戯と仕事とを區別するのは子供のいやがる事である。確かに其れを區別するのは正しいには正しいが、近代の學校は此の點に關して度を過してゐるやうに思はれる。吾々は極端に遠ざけられてゐる遊戯と仕事との兩點を近くくつつけて、學業をもつと遊戯的に又遊戯をもつと有益にすれば出來さうなものだと思ふ。確かに學業には厭やなことにもあくびをかみしめてする樣な部分を要するには要するが、嚴重な義務の觀念によつて總ての學校の仕事の實行を排外的に要求することは誤つたことである。義務の觀念や責任の觀念によつてのみいやがる仕事を強ゆるにはそれに懲罰を伴ふやうになるであらう。これは教育の本旨から考へて喜ぶべきことではない。親は子を養ふのが義務であるからと言つて、病める子供を看護する母親が唯義務のために子供を看護するのであつたならそれは余りに低級である。母親は病める子供のためには他に何物も考へない、唯看護せずには居られない心から、病氣を癒さねばやまぬとの熱情から、晝と言はず夜と言はず寢食を忘れて病める子供のために看護する。然し自分はどんなに苦しくともつらくともいさゝかも意に介しない。そうして子供の病氣さへ治ればたとへ自分は疲れ果て衰へ果てゝ居ても、子供のために衷心から祝福するのである。斯うした母の心は子供をよく成育せしめると共に、人生を淨化し

美化するに充分である。此の心は知識の修得から得られるのでもなく、理性の發達から培はれるのでもなく、愛と熱情から生れて來る欲求そのものであり、吾々が言はんとする遊戯精神である。

此處に於て遊戯精神とは何を意味するかを要約すべきであるが、それは極めて困難なことである。遊戯精神を模倣の精神とか、自己幻想の精神とか呼ぶのは一つの立場合から見た見解であつて他に考ふれば考ふる程、吾々が今定義を與へんとしてゐる此の遊戯精神は、人生の纖維の中の大勢力と密接の關係あるを益々自覺するに至る。遊戯發達想像模倣藝術並に仕事此等のものに遊戯精神は關係してゐるものであつて、そこには愛の念を除き熱烈な欲求を除いては人生に殘される利益はどれ程あるか殆んど疑はしい。子供が最も幼少の時子供の内部に働いてゐる精神、彼等の性格を構成する精神、又偉大な藝術家を産み出し、或は今日に於て人をして人の心にある最善の創作の産出を促す所の精神、是等を何と呼ぶことが出來るだらうか。吾々はこれを今遊戯精神と呼ぶのである。此の遊戯精神は吾々人間の奥深き所に存する或る物を構成し哲學が其れに拂つて來たやうに甚大な注意を拂ふに値するものである。

人類が思索を始めてより總ての哲學者は此の遊戯精神と言ふ餌を少しづゝ嚙つて見た。プラトー、アリストートル、ニーチエ、カント、バーバートスペンサー等是等は皆後世に何かしら或るヒントを投げ與へた。然るに今後若し或る偉大な哲學者が、心理學、社會學並に遺傳學の類似科學に於て此の問題を研究し、遊戯の意義と目的とを語つて下れるであらう。此の時こそ教育改革は行はれ、アレキサンドリアに於てすら嘗て見たことのないやうな教育に關する書物否人生に關する一切の書物の大火を起すであらう。

第四章　教育史上遊戯は如何に取扱はれたか

世界の教育界に於て、最も重要な役目を演じてゐる遊戯の教育的方面が、左程迄に注意を牽かなかつたと言ふことは可成著しいことである。軍人であり、又同時

に政治家で、哲學者で、且つ又、美術家を兼ねてゐた、理想的なアテネの市民は、その生活全體を通じて遊戯その他の肉體的活動が主要な部分を占めてゐた。これはアテネのよく平衡を保たれた教育制度から生み出されたものである。勿論、今日吾人はそれと同樣の努力を肉體的完成のためにのみ拂ふことは出來ないと思ふが、暫く古代ギリシャの教育の理想並にその結果と、近代歐洲に於ける其等と比較すれば、最近に至つて僅かに體育が重ぜられるやうになつては來たが、その中間の世紀に於ては教育上に於ける肉體的陶冶に關する吾人の觀念を消失せしむるといふ不愉快な感情を生ぜしめる。

紀元前第四世紀、第三世紀に於けるアテネの小學教育は、文學、音樂及び遊戯の三部に分れてゐた。第四世紀の末頃此の課程に繪畫が加へられた。教育の三部門の中文學とは、讀書、習字、算術と詩の暗誦をいふのである。然るに音樂の學校では七絃琴と笛とで韻律と諧調との練習をなさしめた。これ等より遙かに重要な部門は角力場兼體操場で指導せられた肉體的訓練であつたのである。子供は徒歩競走、種々なる球戯、鐵彈投擲、圓盤投、水泳、角力、拳闘、馬術並に拳闘と角力とを折衷したパンクレーション等によつて身體を練磨した。これ等と共に舞踏は極めて盛に行はれた。ケネス・フリーマン Kenneth Freeman の「ヘラスの學校」といふ價値ある論文に於て、彼は次の如く述べてゐる。即ち「舞踏はギリシア全土を擧げて普遍的であつて、通例認められてゐる以上教育上重要な活動を演じた」と。

舞踏の眞の內在的價値を離れて、宗教上の儀式に入つたといふことを考へるとダンスが教育上重要であつたことを了解するのは易々たることである。彼のバッカス頌歌の歌舞隊並にバッカス・ダニオニスの禮式の中に少年を舞踏せしめるやうに訓練することが必要であつたのである。これ等の舞踏は極めて遊戯的であつて青年になると隨分熟練したもので、フリーマンの言ふところによれば、一人の舞踏は何等一語をも發しないで、ピタゴラスの哲學の體系をわかり易くすることが出來ると言つて評判されたものであるそうだ。此の舞踏と言ふ技術を鑑賞するには、何もピタゴラス Pythagoras の哲學原理を知る必要はないのであるが、こ

れによつて見るも、ギリシヤに於ては如何に高級なる科學的見解に基いて舞踏なるものが演ぜられたかが窺はれるのである。然し、此の表情的舞踏の眞の教育的價値は、自己表現の一手段として重要視せられたことは明かにわかる。即ち、就學兒童が、鐵工場で働く樣や、鍛冶屋の仕事の有樣や、舟乘の生活などを表現する舞踏やら、獸や馬などを模倣した舞踏やらが演じられた。舞踏は知識才能を發達せしむる理想的な機會であることを認められてゐた。これ等の模倣的、表現的遊戯は子供は頗る愛好し、必要とするところのものであるのだが、二千年以上經つた今日に於て我國にありては、旨目者流の批難を恐れて餘り行はれなくなつた。

スパルタの教育制度は假令、幾分制限するところは、つても、前に述べたと略、同樣の根據で、競技、音樂、舞踏が教育上の重要なる要素であつた。スパルタの教育に於て幾分か獨特の形式を帶びてゐたのは、竊盜を强制的課目としたことである。スパルタの少年は七歳に達すると家庭よりひきとられ、學校に收容せられて團體を組織する、その各團體は Eiren と呼ぶ青年の監督の下にあつて、その青年が自己の生徒の絶對的支配權を握つてゐる。一團體に屬する少年は自分等の師 Eiren に果物、野菜、薪炭並に若干の生活上の必要品及び贅澤品を竊盜して來て供給す可き義務がある。巧みに竊盜したものは非常なる賞讃を博するに反し、拙劣で捕へられるやうなことがあると、一回はその物品の持主から、一回は教師からと二回答打される。一見すると不正直のお稽古をしてゐるやうであるが、スパルタの大部分の財産が盜んでもよい物品は法律によつて記錄されてあつたことを吾人は考へねばならない。かゝる事情があるから、此の法律上正當と認められてゐる盜みは偵察の訓練、其の他軍事目的の價値ある訓練をする遊戯となるのである。子供は子供の働きによつて得た資力のみで生活して行ける時には、徴發隊として派遣される、彼等は野營をし、伏兵を設け、一定の時日を經た後掠奪品を携へて教師の所に歸る。スパルタの教育目的は、有爲の戰士を作り出すことにあつたから、文學教育が如何程の重要さを持つてゐたかは明かではないが、總て教育は實利主義で人間の原始的本能を滿足せしめ得るものであつたことは明白である。

人間性は二千年以前とその本質に於ては同じであるから、いつの時代の子供でも自己心内の本能の力を感ずるのであるが、中世紀の文明は人間に反抗して神に仕へる所謂神の文明であつたがために子供の自己心内に力強く感ぜられる本能を發揮し得るやうな資料材料をきれいに子供からとりあげて仕舞つたのである。

然るに人間を發見したと云はれる近代の文明は、人間欲望を認容し、本能の發揮助長せしむる資料が供給されるやうになつたので、近代の教育者は中世に於ける不自然な狀態を救はんとして教育上の活動體としての遊戯を復活せしめたのである。その遊戯が古代ギリシャの教育に於て活躍したものが、幾分新しい衣を着けて再現したのである、現今米國が頗るよく利用して居り、歐洲の各國並に我國に於ても漸次利用されやうとしてゐる公設運動場も、古代アテネの運動場を近代の習慣に適合せしめたものである。又、ボーイスカウトの如きもスパルタの Agelai の訓練を眞似てゐる。

教育に關する學者の意見を見るに、プラトー Plato より今日に至るまで多數の人々が遊戯の價値を認めてゐる。ギリシャ文學には教育に關する特別の著作は無いが、ギリシャの二大哲學者の著作には教育に關する多くの意見を散見することが出來る。プラトー(Plato 427—347, B.C)は、法律」と言ふ書物の第七卷に於て、少年少女の强制的教育を辯護し、遊戯に關しては次の如く述べてゐる。即ち「三、四、五、六歳の頃は子供の本性は遊戯を要求する。此の頃の子供には或る確かな興味の自然的樣式があつて、子供が集まるときにはそれを彼等自分が見出すのである。三歳より六歳に至る子供は總て村の寺院とか、或は家族的に集り得る一ヶ所に集めて、そこで乳母は子供の行儀を監督し、子供が自然に行ふ遊戯を適當に且つ秩序あらしむるやうに指導すべきである」と。その著作の終りに於て、彼は子供の遊戯の重要さに關する最も著しき貢獻をなしてゐる。即ち、彼は「概して兒童期の遊戯なるものが法律の永久性或は、永久性の必要に重大なる關係のあるものだといふことを觀察した人はをそらく一人もあるまいと考へる」と言つて、遊戯のこの方面に於ける價値を力說してゐる。彼は尙、議論を進めて「各州の法律が子供の遊戯に刷

新を加へないで保存して置くことが必要である、何となれば、遊戯を度々變へる國は、知らず識らず青年の作法を變じ、從つて老人を賤しむべしとなし、新人を尊敬すべしとなすからである」と言つてゐる。彼は尙進んで、子供の遊戯が注意を拂ふに値しない單なる些細事として現はれるときは、その結果は常に惡いと言つてゐる。プラトーは彼の著書「共和政」に於ても遊戯に關しての意見を述べてゐる。その著書の第四卷に次のやうな會話がある。

ソクラテス「故に僕が前に述べたやうに、吾人の子供は幼い時から法律的形式の遊戯に參加させなければならない、何となれば、若しかゝる遊戯の氣分に取り卷かれなかつたなら、品行方正で有德の市民には決してなれない」。

アデイ　「全くそうです」。

ソクラテス「子供が適當な時機に於て、遊戯を始め、音樂を適當に使用することを學び始むれば、子供は立派に訓練せられて、たとへ、衰微した州でもそれ等の子供の將來の活躍によつて、再び勃興するであらう」。

アリストートル Aristotoles (383—322, B.C) は「共和政」の七卷十七章に於て、遊戯に關して次のやうに說いてゐる。即ち「子供は適當に動作をすることによつて肉體の放縱な習慣を避けなければならない。これがためには、種々の手段があるが、就中遊戯によつて最もよくなし得られる。子供の遊戯は偏狹であつてはならないし餘り勞力を要するものでもよくない、去りとて、怠惰なものではいけない。子供の遊戯は後年に到りて仕事を眞面目に行ふ習慣を養成するのである」と。又アリストートルは遊戯を精神並に肉體の娛樂休養として推賞し、又同書の八卷、三章に「遊戯は藥劑と同じく適當に調節して行ふ可きものである」と言つてゐる。

ローマ文學には遊戯に關したもので見る可きものは極めて少い。シセロ (Cicero) は「De officiis」に於て、戰爭ごつこや、狩獵遊戯に關して可然敍述してゐる。一方、彼と同時代のヴアロは敎育に關する論文に於て、音樂、舞踏其の他希臘敎育の成分たりし多くのものを擁護してゐる。クウンチランは確に「中庸を得たる遊戯」の贊成

論者のやうに思へる。彼は著書「學院」の第一卷三章に於て「少年の遊戯は自分の意には反しない、其れは快活であることを示すものであつて、之れに反して常に遲鈍であつて、活氣のない少年がその年齢の頃によく起る刺戟に對してすら無關心であるやうでは、自分の研究や、勉强に熱心になり得やうとはどうしても考へられない」と言つてゐる。又更らに「子供の遊戯に於て彼等の道德的傾向は自づと明かに現はれるものである」と。彼は尙進んで、彼等の才能を鋭敏にするやうな遊戯を子供のために撰擇することの必要を力說してゐる。概して言へば、多くの人々は羅馬人より遊戯に對する贊成論を引用し、而して、遊戯が或る有益な目的に專ら役立つことを力說されてゐる。

基督敎時代の初期から遊戯は敎育上顧みられなくなり始めた。競技の如き勝負事と舞踏とは異敎徒の祝祭に關聯せるの故を以つて禁ぜられた。最も無邪氣な娛樂と雖、當時の禁欲主義のため道德上の罪惡だとして目せられてゐた。此の頃の人々の著述を見ると屢々音樂、競技並に遊戯をして樂しむ事に反對し、警告してゐるのがわかる。初期の敎會の敎は、かゝる快樂は心を散亂するものであるから、總て敎育より嚴重に排除すべきものであると敎へた。セントアウグステンSt. Augustenでさへ、「懺悔錄」の第十章に於て、彼の幼年時代の罪惡の多くは不當にも遊戯とお伽話を愛したためであると告白してゐる。カール・グルース Karl Groos は、トルネルの流を汲んで意見を發表してゐる。トルネル Tollner は、「如何なる種類の遊戯と雖、凡ての正敎を奉ずる學校に於ては禁止すべきであつて、遊戯の虛榮とか、馬鹿げた行爲が如何に人の心を神や、永遠の生命より遠ざけ、彼等の不滅の精神を滅亡せしむるかを子供等に說明すべきである」と、言つたと傳へられてゐる。此の時代に於ては唯、騎士の間に於ては騎馬・水泳・射術・擊劍・遊獵等が行はれたのみである。

敎育に於ける文藝復興時代は遊戯に關しては余り聯想することがない。文藝復興に參加した人々の信念は寧ろ、世界は書物によりて再生せらる可きであるといふのであつた。然るに、文藝復興は近代歐洲民族の成長と自覺とにより、古典文

學の眞價を動め厭世的より樂天的に隱遁的より現世的に禁欲的より自然的となり、華やかにも若々しく醒めて、精神的にも肉體的にも獨立を要求する傾向が、全大陸の教育界を覺醒せしめた一般の興味の中に、幸にも單なる古典學問よりは教化といふことに大なる意味があると主張する人々を生ぜしめた。十五世紀の初期にマンチユアルに建設されたVittorino Da Feltre (1378—1446) の有名なる學校が夥しき學科目を有してゐて、その中に競技、遊戯が重要視されてゐる。乘馬、擊劍、徒步、跳躍等の正規の練習以外に弓術並に球戯の競技を奬勵した。

ヴイットリノーWittorinoは遊戯を重く視て、屢々、生徒を二組に分けて、戰爭ゴッコや陣取りをさせ、野營をさせ、塹壕攻擊等をやらせた。而して、競技は青年の全態度に影響する所の肉體の優美、輕快とを發達させるものだと彼は信じ、遊戯に熱中するときには疾病の源泉としての怠惰とか女々しさとかいふものは、抑制せられ、精神はより以上の強さで勉强や思索に委ねられるものと信じた。又彼は、遊戯に最も熱心であり、最も快活な學生は、常に善良なる運動及學習に於て一番熱心だと斯言つてゐる。

其の後約一世紀經て、ラブレーFrancois Rubelais (1483—1553) が諷刺小説中の人物である、ガルガンツアGargantuaの生立を述ぶる中に彼の教育思潮を表はしてゐることに復興派の人々は輕蔑的批評を試みてゐるが、ラブレーは少くとも單なる書物以外の他の方法によりて、理智は發達し、性格は形成せられることを物語つてゐる。而して、彼の教育に於て遊戯は決して等閑に附せられて居ない。又遊戯技のみならず、唱歌、舞踏、手工並に繪畫即ち、自然的研究及手工訓練をも含んでゐる。

ガルガンツアは朝四時頃起き、人に身體を擦らせ、かくする中に從僕が彼に聖書の一節を讀む。讀む所のものは特に感情を動すやうな部分を擇ぶのである。又自然に身體を休めてゐる間に、前日學んだことを復習し、それより天體の觀察をする。又着物を着たり、鬚を剃つたりする間にも教授を續けて行く。然るに此の間に種々の問答が行はれるが、それは主として學んだ所の物を實際生活に應用することに關したことである。その後三時間講義があり、後他の生徒及び教師と共に

戸外に出でて遊戯をし、遊戯の後は身體を洗ひ、下着を着更へ、斯くて晝食をとる。食事の前に又文章などを暗誦し、食事の間は面白き物語を讀ましめ、且つ食物の性質であるとか、由來であるとか言ふ如きことの問答をする。此の場合には古典を引用して說明をする。斯くて生徒は自然に博物の知識を得るのである。食後には口、顏、手等を洗ひ神に感謝の祈を捧げる。其の後カードや賽子などに依つて數學的遊戯をなしつゝ數學の初步を學びそれより幾何學天文學等に就て問答し、又音樂練習などをなし、唱歌が十分に出來たと見れば再び講義が初まり、二時間續けるその時は午前の稽古の續きなのである。それが終ると又戸外に出でて體操又は武藝を演じ、競走、狩獵、水泳などをする。それより下着を改め、牧場を渡つて家に歸る。此の間に又博物學上の知識を得る。斯くして夕食を待つてゐる間に其の日に學んだ所のものを反覆させる。夕食後は神に感謝の讃美歌を捧げ、音樂などを演じ、數學的遊戯をなしたり、その日に學んだこと及び經驗したことを反覆し、然る後感謝の祈禱を捧げて寢に就くのである。若し雨天であれば、講義は常の如くあるが野に出ることが出來ないから、製造所等に行き、工業の有樣を學ぶ、若くは法廷に行つて裁判を傍聽したり、寺に行つて說教を聞いたり、又店に行つて商品の研究をし、特に藥店を訪問して醫藥に關する知識を得る。斯くの如くして實物に關して實益なる教授をしたのである。若し晴天であれば、一ヶ月に一度は遠足をする。此の間にも學習を忘れないのである。

以上は教育に關するラブレーの理想を述べたものであつて、彼は人文主義を奉じつゝも亦宗教主義を離れることが出來なかつた。然も教育に於ては實益ある教授を施さんとする實利主義的傾向を有し遊戯その他の運動は大いに重要視したのである。

文藝復興期の初めに當つて、伊太利の人文主義者として教育のことを論じた最初の人とも言はるべき、ヴエリゼリオ Pier Paolo Vergerio(1349—1428) は中世の僧院教育に反對して、力强き人物を養成することの必要を述べた。その手段としては正しき學術と技藝等を授くるにありとし、然も學術技藝の基礎的のものは、成るべく

早く授くべしと言ふ意見を持つてゐた。尙彼は身體を鍛錬することを尊び、競走、高跳、幅跳、相撲、闘拳、弓術、騎馬等を身體鍛錬の手段として課すべきものとし、殊に遊戯を以て教育上大切なものとしてゐる。

又同じ伊太利の人文主義者であり、自ら羅馬法王となつて、ピウス二世 Pius II. と稱した、ピッコロミ Aeneas Bylvius Piccolomini (1405—1464) は彼の著書「兒童教育論」De liberorum educatione に於て彼の貴族教育の理想を述べてゐる。彼は身體及び精神の教育を併せて大切なることゝし、德性の陶冶を全うするには天賦の性能を必要としてゐる。自然の本性の上に、教授と練習とが加つて、そこで有德なる人となることが出來るとした。體育及び精神教育は早くより始めなければならない。軟弱なる教育は努めて之れを避け、武器を使用すること、弓を射ること槍を投げること、馬に乘ること、走ること、泳ぐこと、狩りをすること等を奬勵せねばならないと言つて、教育上遊戯の重要なことを力說してゐる。

ピッコロミーと同じく、伊太利の人文主義者であつて、然も貴族教育のことを書いてゐる、ヴィレルフォ Francesco Filelfo (1398—1481) は「貴族教育に於ては教師が輕薄なることと軟弱なることとは第一に避くべきことであつて、惡しき手本程生徒を害するものはない。生徒の精神的能力を精密に調べて、それを損ねないやうにしなければならない。それ故に生徒に體罰を加へることは宜しくない。却つて遊戯等を課して生徒を喜ばしめ、又象牙の如きもので文字の形を玩具に作り、樂んで學ぶ習慣を付けなければならぬ。競走、跳躍、相撲等は精神的修養にも身體的修養にも益がある。殊に名譽心を鼓舞する上に於て益が出る。弓及び武器使用の練習も宜しい。午後は十分に遊戯をなすべきである」。とて教育上遊戯の價値を認めてゐる。

ラブレーと殆んど同時代で彼と略同樣の教育思想の一端を表示してゐる、獨逸の人文主義者の泰斗であるエラスムス Desiderius Erasmus (1467—1536) は、彼の有名なる「對話」に於て、遊戯に對して同情的態度を持してゐる。「種々の遊び」に關する部に於て次の對話がある。

ニコラス「此の好いお天氣は、遊びに出ろといふ懇切なお招待なのです」

ヂエロメ「成程、あなたには左樣でせうが、先生はちと違ふのです。あなたは先生から遊び日をお頂戴する位なら、ヘラクレス倶樂をもなくしてしまつたらよいでせう、けれどね、あの人程遊びの好きなお方は無い程の時代もあつたのです」

ニコラス「おほせの通りなんですが、あの人は自分が子供であつた頃のことを隨分長くお忘れになつてゐるんです」

コクレス（先生に向つて）

「全校擧つて一日の遊び日を下さいと言つて居ります」

ヂエロメ「お前方はわしからお許しが出なくとも遊びばかりしてゐるんだ」

コクレス「先生のやうな智惠のおありのお方は、今迄吾々をクインティリアンの外で教へて下さつたやうに適當に遊戯すれば頭を鋭敏にするといふことはおわかりでせう」

此の對話の後部の方にニコラスとヂエロメは尙進んで球戯に就いて討議をしてゐる。ニコラスの言ふには「ストールボールが一番身體の總ての部分を練磨するのによい」と。エラスムスは、當時の學校の壓迫的手段の誤謬を強く感じて「矛盾した名前を持つてゐるものとすれば、其れは學校である。ギリシヤ人は學校を "oxory" と呼んで、其れは暇とか、休養とか言ふ意味である。羅馬人は遊びといふ意味の "ludus" と呼んだのである。今日は學校程娯樂とか休養とか遊戯とかに關係の少いものはない」と言つてゐる。

英語で書かれた教育に關する最も古い著述の中の一つである「初步」を著したリチアード・マルカスターは、一五九六年頃セントポールの學校の教頭であつた。その書物には次のことが書いてある。「手、耳、目は吾々の學問の繼承並に傳達が主として行はれる所の最も偉大なる機關であつて、この「初步」が字を書くこと、繪を描くこと、遊ぶことを手に教へ、文字を讀み、線を識別し、文字及線を判斷することを目に教へ、又、適當なる快樂を伴ひ。シヤレを含んだ言葉を要求するやうに耳に教へない

であらうか」と。それは教育に於ける運動並に遊戯の價値を幾分認めたものである。

之れより進んで、モンテニュー Wichel Eyquem Montaigue (1533—1592) に至ると、十六世紀の教育的文學の中に遊戯の意義を高唱してゐるのを見出す。彼の「習慣」に就ての論文に次の句がある。即ち「子供の遊戯は遊び事ではなくて、彼等の最も眞面目なる仕事だと考ふべきである」と。又、同じ論文の第一卷の二十五章に彼は、學校訓練の性質を述べ、青年の教育に關して、「すべての遊戯並に運動は學校訓練上研究すべき重要な一部でなければならぬ」と述べ、徒歩競爭、相撲、音樂、舞踏、狩獵並に武器と馬との使ひ方等の運動を行はすべきだと言つてゐる。

「大教授論」「Dialoctica Magna の著者である、コメンスキー Johann Amos Komenski (1592—1670) は彼の初期の著作「母校」に於て、子供が特別の運動場をもつことの利益について述べてゐる。「大教授論」の二十八章の八條に於ては、次の如く書いてゐる。

「子供は働くなり、遊びなりして絶えず暇のないやうに導くべきである。又怠惰が子供に堪へ難いものとなるやうに教ふべきである」と。又「秩序ある學校の規則」と題する論文に於て、彼は「肉體を活動させ精神を休養させる事が必要であるから、子供は運動場で走り、跳び、遊戯をするやうに奬勵せねばならない」と、主張してゐる。

ロック John Locke (1632—1704) は、彼の「教育思潮」に於て、の卷頭第一に「健康なる精神は健康なる身體に宿る」(Mens sana in Corpore sano) と言ふ句があつて最も力を入れて體育のことを論じ、遊戯に就いて隨分書いてゐる。ロックの著作は、ラブレーとモンテスニューの教育的概念を進歩發達せしめたもの即ち、教育といふものは單なる教授とは同一のものではなくて、人間性の全般に亘る發達でなければならないと見做すのである。教育に關する此の見解を維持する以上は、必ず重要なる教育制度中には、子供の遊戯が占むべき地位を認めなければならない。ロックは、最初には遊戯を怠惰に對する救濟策として述べ、遊び道具に關しては、子供が夫々自分で自分の遊び道具を造るべきことを勸めてゐる。彼は大いに筆を揮つて勝負事より得らるべき性格の陶冶に關して力說し、遊戯の監督並に指導の必要をも說いてゐる。「總て子供の

遊戯は善良にして且つ有益なる習慣に向つて導かれねばならぬ」と、彼は言つてゐる。又「遊戯が娯樂休養として取扱はれてゐるのは、遊戯を等閑に附したものである」と、言つて、彼が子供の遊戯を休養娯樂と區別してゐるのは注意すべきである。尚、彼は、子供に讀書・習字・算術を遊戯の形式として教授することに關して述べてゐるが、此の點に就いては單にプラトーの說を繰り返してゐる許りである。プラトーは共和政の第七卷に於て、「初期の教育は一種の娯樂とすべきである、何となれば、そうすれば自然の傾向をよりよく發揮することが出來るから」と述べ、又「法律」の第七卷に於て、「埃及に於ては子供は讀書・算術を遊戯として教へられた」と。又彼は「私は多くの子供が娯樂によつて讀書するやうになつたことを知つてゐる」と述べてゐる。

佛人でロックと同時代の人である、フェネーロン Fenelon は、遙かに制限された方法ではあるが、彼の著述「女子教育」に於て遊戯に就いて、「近代、遊戯は勉强に對する休養であると辯護してゐるが、遊戯より生ずる積極的の利益よりは、寧ろ、遊戯より起り得べき弊害の方をより恐れてゐるやうである」と述べてゐることは注意すべことである。

ルソー Janjoe Ruso 並に彼以後の教育に關する者がもつと積極的に遊戯といふものを辯護し主張してゐるのを見ると、誠に我が意を得たるものと思はれて嬉しいことである。ルソーのエミール Emiir の名聲は殆んど世界的に擴がつて、これが教育の實際に及ぼした影響は英大なものである。此のエミールの著者ルソーが、ラブレー・モンテニユー或はロックに負ふ所が多いとは考へないまでも、バセドウ Basedow ペスタロッチ Pestaroch 及び フローベル Flowbel の三大教育家が「エミール」より、彼等の教育上の經驗の靈感を抽出したことは指定し得るのである。

彼の教育の根本は、人が天より賦與せられたる自然の本能を自由に開發すべしと言ふのである。エミールの開卷第一に「神の手を離るゝ時には總てのものは善である。人の手に移つて總てのものは墮落する」とあるのは即ち之れである。「エ

ミール」は彼の主人公であるエミールが出生後二十歳に至るまでの教育の有樣を述べたもので、その第一卷は一歳より五歳までの教育の有樣を說き、教育の大切なること、兩親の教育的任務を說くこと頗る詳である。父は自然の教師にして母は自然の保姆であるとし、斯かる教育的本務を自覺せざる者は人の父母となるべきものではないと言つてゐる。尙、ルソーは幼少なる人の教育に關してはロックの嚴格主義を採り、子供に媚び諂つて其の心情を墮落せしめ、又子供の身體を鍛錬することを忘れて終生虛弱ならしむることを戒めてゐる。第二卷は五歳より十二歳までのエミールの生ひ立を說き、子供は子供らしかるべしと言ふことを原則とし、讀書等はなさしめずして專ら身體を鍛錬せしめる感覺器官及び體力を鍛錬せしむべしと說いてゐる。即ち、エミールの初期の教育は全く遊びに依つて行はれてゐることが分る。此の方法を擁護して「諸君はエミールが幼い時何もしないで時を過すのを見て當惑するのですか、何ですつて？ 樂しくしてゐることが詰らないことですつて？ 一日中跳んだり、はねたり遊び廻つたりして何にもならないつておつしやるんですか？ 彼の一生涯に於て是の時程忙しい時はないのでせうよ」と言つて感覺の訓練並に肉體的活動の非常に重要なことを力說してゐる。「彼に仕事を與へて何かさせよ。走らせ、叫ばせ、常に活動させよ。而して活氣ある人たらしめよ、然らば彼はそれだけ早く理性ある人となるであらう」と言つてゐる。

第三卷は十三歳より十五歳までのエミールの教育を說き、此の時代に至つて初めてロビンソン・クルソーを學ばしめ、又個性を堅固にし知識の收得を進める。それにも好奇心によつて自然に研究せしむるやうにし、知識もなるべく實用的のものに限るべしとし、職業に關する知識を授けることも、手工を學ばしむることも必要であるとし、而して總てに於て直觀的教授を大切とした。即ち、エミールが最早や兒童期が終らうとして、眞面目な研究に入るべき準備の出來た此の期の始めに於て教育の効果の概略を記して、「勉强も遊ぶことも彼にとつては同じである。彼の遊びは仕事であつて彼には兩者の區別はない。彼は何事をなしても非常に熱心に又自由にやる。これは彼の心的傾向を示し、知識の範圍を示してゐる。純で

無邪氣な、ほがらかな顔をして笑ひを堪へ、正直な顔付をして最も眞面目なのも遊んでゐる時である。最も詰らぬ遊びにも一心に耽つてゐる。斯うした可愛らしい子供を見て嫌がる者があらうか」と述べてゐる。彼は成熟期に達して始めて子供の生活を終らしたのであるが、幸福を犠牲にして成熟期に達したのではなくて、幸福と言ふことを手段として成熟期を發達させたのである。

十八世紀の末頃及び十九世紀の初期は教育に關する多くの著者を出した時期である。或人は吾人に多くの賢明な言葉を與へてゐる。其等の著者に次いで現れた女流教育家の中で、最も始めに屬するものゝ中の一人は、カンバン女史である。彼女は彼の女の價値ある著述「教育に就いて」の數章を遊戯のために費してゐる。今茲に子供の遊戯に關する監督に就いての一部を引用して見よう。第九卷四章に「遊戯の撰擇は全く子供に任すべきではない、全然子供任せにすれば、子供はぢきにあきて氣分が弛緩するからよくない。けれども自由といふ要素は殘して置かねばならない。何故なら自由がなければ愉快はあり得ないから」と述べてゐる。

フランスの教育思想は非常にルソーの影響感化を蒙つてゐるので、遊戯によつて子供の愉快さ快活さを刺戟し增進せしめると言ふ彼ルソーの主義は、上級の兒童の中にはどうしても極端に過度に行はれ克ちであると言ふ弊害を生じたやうに見える。それがためフエネロン Fénélon カムバン女史及び他の人々の遊戯の刺戟興奮及び、遊戯中兒童の感情の激動に對する警告は等閑に附せられたのである。コロザは「兒童遊戯の心理學」といふ小さい書物に次の如く記してゐる。「獨逸の有名な醫師フリードランデルはフランスに到着した時、如何にフランス人が子供の快活さを進めようとして努力してゐるかを見て驚き『母親は子供の幼い時に餘り子供と遊び過ぎ、餘りに早くより快活といふことを奬勵し過ぎるものだといふ印象を受けた。獨逸等では、母親は子供を靜かに休ませて置く』と言つた」と。之れによつて見ても、當時フランスに於て教育と遊戯が如何に取扱はれてゐたかを窺ひ知ることが出來る。

次に獨逸に於て體操の元祖とも言はれる、バセドウはハムバルグの一理髪師の

子で、ゲーテや、ラファエルの友人であるが、此の人がルソーの影響を受けて、彼の有名な凡愛學校を始め、其處では子供は子供として待遇し、其處でする仕事は遊びであつた。此の學校で行はれた多くの優秀な教育的遊戯の話を一々するのは紙數が許さない。これを短縮したる叙述はクイックの「教育改革者に就いての論文」に見られる。

「教育及び教授の原理」の著者であるオーガスニイメエルは遊戯は體育・知育・美育・德育の手段であるとして之を推賞してゐる。彼は幼い子供の活潑な身體的遊戯を自然の體操と呼び、かゝる自然の體操は奬勵すべきで、人工的體操に先んず可きものだと言つてゐる。又、肉體訓練としての種々の遊戯の善惡、品質等を吟味研究した後、玩具に就いて述べてゐるが、その中には「子供は自分で自分等の遊道具を造る可きである」といふ、ロックの忠告が繰返されてゐる。最後に「最も善き遊戯のみを子供の遊として選擇するためには、子供の遊戯を精細に監督することが必要である」と言つてゐる。

此の事に關して伊太利の教育家フエランテ・ボルチは優秀なる忠告をなしてゐる。彼の "Mannale di Educatione ed Ammae-strumento per le Seuole Infantali" (一八四〇年發行)に於て彼は「子供の公立學校に於ては、遊戯が規則正しく行はれなければならない、それには訓練が必要である。訓練が無いと教師が總ての子供を監督し教授することは不可能である。然し、子供を强制して、或る特殊の遊戯の仲間入りをさせることはやめて、他の子供の遊戯をやつてゐるのを見て、その子供がその遊戯に興味を持つ迄待つやうに注意しなければならない」と言つてゐる。

ヂエーン・リヒターは "Levana" の三卷に於て、子供の遊戯に就いて述べてゐる。リヒターは「遊戯は人間精神の最初の詩だ」と呼び「子供の通常の遊びは吾々大人の遊びと同じく最も輕快な羽につゝまれた重大なる活動の表現である」と言ひ、その章は詩的の言葉で現はされた美しい詞藻に滿ちてゐるがそれでも矢張り善良なる實際的意見が存してゐる。玩具の事に就ては「澤山遊戯はあつても、玩具は少しにしよう。唯、見るだけのものならそんな玩具を與へないで、仕事に導くような玩

具にせよ」と言つて居る。リヒターは遊戯の監督は幾ら監督しても、仕切れないと信じ、「大人の毛の生えた手や拳が兒童期の柔い芽れから伸びようとする芽を打ち碎くのを恐れる」と言つてゐる。又、此の章の終りに於て若干種々な觀察をして、彼は「子供が何か期待し何か怖ろしいことの含まれてある遊戯を子供は一番好む。其れと同時に幼い時から、詩人は自分のリボンの結目をしめたり弛めたりして、人類に於ける自分の役を演ずる」と言ひ、最後に「總ての子供にはそれ〴〵一群の遊戯と眞實の行動とが與へらる可きである。その上快樂を與へ、遊戯を指導する先生を遊び場の指導者として與へられねばならない」と言ひ、又「クラブネルがネーテルランドの旅行記に於て、和蘭人が學問の學校に送るより前に、自分等の子供を送る所の遊戯學校の話をしてゐるのを讀んだが、確かに、此の兩者の中、どちらかゞ衰ふ可きだとするならば後者の方が存續するのであらう」。と言つてゐる。

遊戯は彼の遊戯に關する大哲學者であり、又遊戯が一等重要せられる樣な教育制度の創設者とも言ふべき、フリドリッヒ・フローベルに依つて次の如く定義せられた。即ち、遊戯は內部の自發的の表現である。內部の必要並に衝動より起つた內部の表示である」と、又彼の傑作である「人間の教育」中に短くはあるが、遊戯の意義に關するフローベルの見解を概括してゐる一つの句がある。即ち「兒童期の遊戯は總て、將來の生活の萠芽である。何となれば全人間と言ふものは是等の遊戯の中に發展し指示されるのである。人間の後半の全生活は此の世を去る瞬間に至る迄其の源泉を兒童期の此の期間に持て居る」と。

此の章を終るに當つて遊戯に關する彼フローベルと同時代の著者に就て簡單に其の意見を參照しよう。第一にカール、グルース教授の二つの著作に就て述べよう。其れは「動物の遊び」と其の後の著作「人間の遊び」の二つである。兩書共に英語に飜譯されて、英國でも米國でも發行されて居る。グルース教授の生物學的遊戯說は既に討議したが、彼は遊戯の教育學上の意義に關する部に於て、遊戯に就て兒童の訓練にあづかつてゐる總ての大人に提出された三つの命令的義務を述べてゐる。其の第一は子供を遊戯するやうに奬勵すること。第二は善良にして

有益な遊戯を進めるやうに子供の遊戯を導くこと。而して、第三は總ての有害な不適當な形式の遊戯を阻むやうに監督することである。グルース教授が子供の遊戯を奬勵する必要を述べてゐる短い句を引用すると斯うである。「我國の人口が稠密になるにつれて、遊戯を適切にする必要は明かになる。都會の子供は不自然な條件の下に成長するのであるから、遊戯、殊に健康によき運動遊戯を行ふべき機會と場所と指導者とが與へられ、然も尙有益にして興味ある體操遊戯を子供に紹介するやうに努力せねばならない。かゝる努力をなした場合の興味は吾々近代の生活法の弊害が、育効に矯正せられるだらうと言ふ望に力を添へるものである。」

遊戯說として反復說を說いてゐるスタンレー・ホール博士の「青年期」に就ては既に述べたし、又「遊戯の刺戟」と言ふラザラス教授の小冊子のことも言つた。其の他遊戯に關する最も有益なる著述の一つは、ネーブルスの體操女教員でローヤルスクールの教授たる、ジー・エー・コロッザ博士の價値ある著作 "Il Gieoco nello pychologia e nella Pedogogia" はウフエル Chr. Ufer に依て獨逸語に "Inter-nationale Paed. aggiche Bibliothek" 「國際教育圖書館」と飜譯されてゐるが、彼も遊戯の教育上重要缺く可らざるものなること力說してゐる。

英國は遊戯に關する書は余り多くはない、僅かにそれに關する小冊子は現れたが、一番重なるものは「遊戯とは何ぞや」と題するもので、それは一八七七年エジンバラで出版されたが、多年絕版になつてゐる。その著者は醫者であるが、此の著述については「生物學上の研究」として書き、遊戯の肉體的訓練に關する若干の有益な知識を含んでゐるだけだと記してゐる。

米國に於ては多くの著者が「教育の學校」やその他教育上の出版に價値ある論文をかゝけてゐるが、吾々の知る所では遊戯其のものに就いて論じ遊戯の方法を述べた著作は別として、教育上から遊戯を論じた書物は尠いリーランドの作である Playgiound Technique and playcraft やジョージ・イー・ジョンソン Joij E. Johnson の著書である「遊戯競技に依る教育」"Education by Play and Games" 等が主なるもので、殊に

後者は教師や兒童愛護者の一讀再讀すべき書物で、唯、缺點と言ふのは余り短かすぎると言ふだけである。然しながら此の著述とて教育上に於ける遊戯に關する完全な記錄では決してない。

其の他遊戯に關する著述はあるが、專門的の書物は之れを省畧する。殊に十八世紀に於ける獨逸教育家例へば、グーツ・ムーツの著作に就て何も述べなつた。彼の「實習並に休養のための遊戯」は恐らく獨逸語の書物の中で一番最初に遊戯のことを論じたものであるが、不幸にして現在の著作家は其れを一部たりとも見ることが出來ない。遊戯に關する同時代の文學に就いては三つの階級に分れる。即ち教育或は心理學に關する著作の中の時々の章＝例へばマクドガル氏の「社會心理學」中の一章＝とか、教育的定期刊行物に關する寄稿及び遊戯舞踏遊戯器具或は運動場整理に關する專門的の書物等である。

第五章　遊戯期

第一節　遊戯と年齢との關係

一切の生長は律動的である。身體の生育に就いても亦其の急速增進の時期と發達遲鈍の時期とが交代する。從つて遊戯は體育との關係上からそれを行ふにも亦教育全體の上からしても、適當の時期に於て適當な指導を行はなければ、其の効果を擧げ得ないばかりでなく其の弊蓋し測る可らざるものがあるであらう。

去れば遊戯と年齢との關係を研究することは實際極めて切要の事であり、又子供の各時期に於ける特色を知るの便ともなすべきである。今之に關する二・三の研究の結果を擧げて見よう。

ギューリック Gulick 氏に據れば、七歳以下の子供は自己の發意で遊ぶことは少く、他人に促がされて遊ぶを常とす。七歳より十二歳迄の時代には其の遊戯は主として個人的及び競爭的である。然るに十二歳以後になると二個の新らしい要

素が頗る顯著となる。即ち第一に遊戯は主として組織的となり、個人的のものは多少團體的のものゝ犧牲となるの傾向あること。第二に遊戯が太古人類の野外生活の風を帶び、狩獵釣魚掠奪游泳漕艇帆船航走戰爭英雄崇拜冒險動物愛護等の趣味の加はることである。而して青年期に於ける特色は女子よりも寧ろ男子に於て更に著しく、其の遊戯は社會的にして勇氣忍耐自制敢爲忠實熱誠等の諸德性を要するものが歡迎される。

クロスウエル Croswell 氏が「ウスター校」の兒童二千人に就いて調査した所に據れば、其の遊戯の種類は七百種あり。就中力技に關するもの最も多く、八歳以後の各年齢に於てはその他の運動に對して殆んど二と一の比を爲し、十六歳に於て四と一との比に增進する。遊戯の種類を最も多く有するは十歳及十一歳の間であつて、一人で殆んど十五種位を記載することが出來る。その後十二三歳は其の數次第に減少して漸く專門化するの傾向がある。鬼事の遊びは六歳の男兒にありては百分の十一を占め、九歳には百分の十九に上り、十六歳に至れば次第に減少して百分の四以下となる。玩具及飯事遊は尙早くから減少し、ボール遊は次第に增加して十八歳は減退しない。骨牌其の他の卓上遊戯は女子に於て十歳より十五歳迄漸次增加の傾がある。十歳以後の小兒の遊戯はその三分の一以上は競爭的遊戯である。十三歳以後に至ると遊戯は共同的及競爭的特色を帶び其の努力を或一定の目的に到達することに向けようとする傾向が益々强く、從つて努力を伴ふ所の遊戯の種類は次第に其の數を減じ、一つの遊戯のために努力する時間は次第に多くなる。即ち、一技に熟達すべき可能性は此の時代に於て最盛にして、自己の獨立を維持し他人に壓倒せられざらんとする本能性は益々現れる。特に十四歳の頃に於ては此の種の衝動は主として手工練習に現はれ、常に何物かを製作し、然も共同的に製作に從事せんとするの傾向あるを見る。

マクギー Meglee 氏は一萬五千七百十八人の小兒に就き彼等が諸種の遊戯に對する選擇の狀況を調査した。氏に據れば、女子は九歳より十八歳迄の間に於て競爭遊戯に對する愛好心は次第に減少するけれども、賭事遊戯に對する愛好心は十

一歳より十五歳に於て次第に增し、十六歳乃至十八歳に於て更に著しく增加する。又十一歳以上に至れば男女共飯事遊は次第に減じ、特に女子にありては十四歳に於て其の減少著しきを見る。敵對遊戯は男子にありては十二歳乃至十六歳に於て著しき增加を示す、而して其の增加の度は女子に於て更らに大である。十歳以後に至れば男子の遊戯上の嗜好は次第に分化し專門的となり、一個人に就いては其の愛好する遊戯の種類は減少する傾向あるも、女子にありてはその傾向未だ著しくはない。且つ男子が此の年齢に達すると組織的遊戯をなすの傾向は甚だ强いが、女子には未だ之れを見ることは出來ない。春機發動期に於ては女子は甚だ「クロッケー」の遊戯を好み、男子は游泳を好み、又「ベースボール」及「フットボール」を好むこと愈々加はる。

同氏は別に記する所なきも其の述ぶる所の事實に徵するに、男子は各季節によつて其の好む所の遊戯の種類を異にするの傾向があるやうである。是れは男子が女子と異なりて、主として野外の遊戯を好むことに基因するであらう。

斯くの如く子供の遊戯は各時期に於て各々の特徵を有してゐる。之等の關係を研究し子供の各時期に於ける遊戯の特徵を捉へて遊戯期を區分することは遊戯の研究上並に指導上重要なことであると思ふ。

兒童遊戯に關する多くの著者は、兒童期を區分し各期間に於ては、其の獨特の遊戯を持つてゐるものだと說いてゐる。今、是れに關する主なる說を、比較する便宜のために擧げて見よう。

ドラモント博士 Dr. Drummond は三つの遊戯期を分けてゐる。即ち、

(一)零歳より七歳迄――此の時には子供は自分の肉體的能力の支配を受けつゝある。

(二)七歳より十二歳迄――此の時は、知力が强くなり、競爭心が遊戯を支配する。

(三)十三歳より十六歳迄――是は社會的期間、團體遊戯の期間とも名付けられる。

アーヴイング・キング氏 Arving King は「兒童發達の心理學」"Psychology of child Development" に於て、三つの區分を爲して居る。即ち、

(一)零歳より七歳迄――此の期間の趣味は環境の直接對象に依りて、提出される直接活動に集中する。

(二)八歳より九歳迄――肉體的發達の遲々たる期間、競爭的遊戯、運動神經の同格並に感覺判斷は發達する。

(三)十歳より十二歳迄――最も勇敢なる期間、社會的本能は强くなる。

又該著作は、八歳と十二歳とを兒童期に於ける、二つの危險年齢だと述べてゐる。此等の時期には、感情が平衡しない。八歳の時には心に思つたことと運動神經調節との不釣合のために生じ、十二歳の場合には、自己と複雜なる社會的位置との不釣合のために生ずる。

ルーテル・ギユーリツク博士 Dr. Luther Gulick は「肉體的運動の心理的方面」"Some Psychological Aspects of Physical Exercise" (1898 出版)に於いて、四つの遊戯期を述べてゐる。即ち、

(一)三歳より七歳迄――模倣的遊戯期。

(二)七歳より十二歳迄――個性的並に競爭的遊戯期。

(三)十二歳より十七歳迄――團體遊戯期。

(四)十七歳より二十三歳迄――社會的遊戯期。

是れはドラモンド博士の區分に更に一期間を加へたものである。

ジョージ・イー・ジョンソン氏 Ma George E. Johnson (「遊戯に依る教育」"Education by Play and Games" の著者)は、遊戯期を五つに分けてゐる。

(一)零歳より三歳迄――感覺發達し、管理を司る。

(二)四歳より六歳迄――運動神經の活動旺盛となり、模倣遊戯を好む。

(三)七歳より九歳迄――運動神經の活動は少いが、稍々巧緻的遊戯を好む。

(四)十歳より十二歳迄――熟練の獲得に有効なる時期。

(五)十三歳より十五歳迄――社會的遊戯を好み、英雄崇拜の盛んなる時期。

此の區分は最初に一期間を附加し、七歳より十二歳迄の期間を十歳以上と十歳以下との二つに分けてゐる。

遊戯教師の訓練に對する方針を起草するために設けられた米國委員の區分した遊戯期は次の如くである。

(一)零歳より五歳迄――模倣遊戯と遊戯の劇化を好む。
(二)五歳より十歳迄――自分決めの氣象が強く現れ個性的遊戯を好む。
(三)十一歳より十五歳迄――物事に忠實であつて團體遊戯を好む。
(四)十五歳以後――娯樂として遊戯を行ふ。

最后に、ヂエシー・バンクロフト嬢 Miss Jessie Bancroft (「運動場遊戯家庭遊戯體操場遊戯」"Games for the Playground, Home School, and Gymnasium" の著者)は、「種々なる遊戯を行はせるに就いて、確定的な制限が設け得ると推理してはならない」と述べると共に、兒童期を三つに分けてゐる。即ち、

(一)零歳より六歳迄――反復練習を好み、擬人遊戯を好む。
(二)七歳より十二歳迄――忍耐力が強まり、團體遊戯を始める。
(三)十二歳より十五歳迄――團體遊戯を好む。

遊戯期の是等の區分には余り變化はない。ジョンソン氏の十歳の時の區分は本能の發達して行く、十歳より十二歳迄の期間とは區別する必要がある。

幼兒時代の最初の期間を無視し、七才、十才並に發情期の年齢に三つの區分をすると、四つの遊戯期が出來る。即ち、

(一)零歳より七歳迄
(二)七歳より十歳迄
(三)十一歳より發情機迄
(四)發情期より青年期迄

是れは必要にして實際的な區分であつて、兒童期の是等の期間の各々の特徴の研究は、子供の遊戯を指導せんとする人々には非常な助けとなるものである。此等の特徴は、子供の達し得た知的並に肉體的の發達の階段に依りて決せらる。遊戯は、本能の發達開化にとりては、理想的養育場である。或る一定の本能、或は一群

の本能は或る一定の年齢に於て子供に現れるやうである。獨り決めの本能、獲得本能、社會的本能等の各本能の一群は、或る一定の段階の發達に達した子供に現れる。總ての本能は「正」若しくは「邪」の方向に指導され得るものである。好奇心、爭鬪性、慾心等は指導を要する本能であり、又指導如何に依りて善ともなり、惡ともなる本能である。本能を教育上に利用せんとする時、心に銘すべき格言がある。即ち、「好機逸す可らず」"Strike while the iron is hot." で、好機を逸することなく適切な指導をなすべきである。

本能と言ふ中にも之れを分類する程、充分に根底深くは無いが、生活上重要な多くの要素がある。而して是等の素質は兒童期に表はれるものであるが、若しも練磨良しきを得なければ、恐らく永久に消失して仕舞ふものである。構成の素質即ち、製作、建築設計の素質を考へて見るに、此の素質傾向は、總ての子供の兒童期に現れるものと思ふ。或る場合には如何なる事情の下にも固執する程強いことがある。又或る場合には余り強くはなくて、奬勵しなければ要求は衰へ、恐らくは、其れ以後、その子供は物を造るのに不器用となるのであらうと思はれる。同樣に、音樂愛好心、舞踏並に、あらゆる藝術の愛好心に就ても、此等の能力が容易に又自發的に修養され得る心理學的時機が兒童期にはあるものである。然るに、若しも、修養練磨する機會がなくなつて仕舞ふと、その能力を養ふことは容易な仕事ではない。此の意味に於て、遊戯には色々な種類が必要であると言ふことを強く主張することが出來るし、又どの親も子供の各遊戯期の特徴に就いて、よく知つて居なければならぬと言ふ理由が立つ。最善の環境を與へることに依りて、子供の各時期に於て發達すべき本能、素質を十分に發達させようとするのが教育に於て爲される最上のことである。

注意深き母親即ち、此等の貴重なる能力の現れる時を知り、自分の子供の遊戯趣味を指導する方法を知つてゐる母親は、我が子を完全に發達させるために、最善の方法手段を利用してゐるものである。子供の遊戯趣味を擴大することによつて、總ての多種多樣の才能の發達を促す機會を與へるものである。又子供の遊戯趣

味を指導することによつて品性を構成する特性を一番よく養ふことが出來、品性を破壞する特性を打破することが出來る。

是より子供の身體並に精神能力の發達に應じて區分した、四つの遊戯期に於ける子供の身體並に精神狀態と、それに適應すべき遊戯の種類及び傾向等に就いて述べよう。

第二節　遊戯期と發育期との關係

人が此の世に生み出されるまでは、凡そ、二百八十日程は母の胎内に在つて、海の深さ、山の高さにも喩へ難い程の慈悲心に育まれて、受精以來著しい發育を遂げ、重さに於ては凡そ、五百四十萬倍、身長は凡そ、二千四百五十倍と言ふ驚くべき增加をなすのである。然もその間に於ては、唯に重さと身長とを增すばかりでなく、人類が有機的生命の始めである原生物から漸次的發達のために費された數萬年間に於ける偉大なる變化が繰返へされるのである。

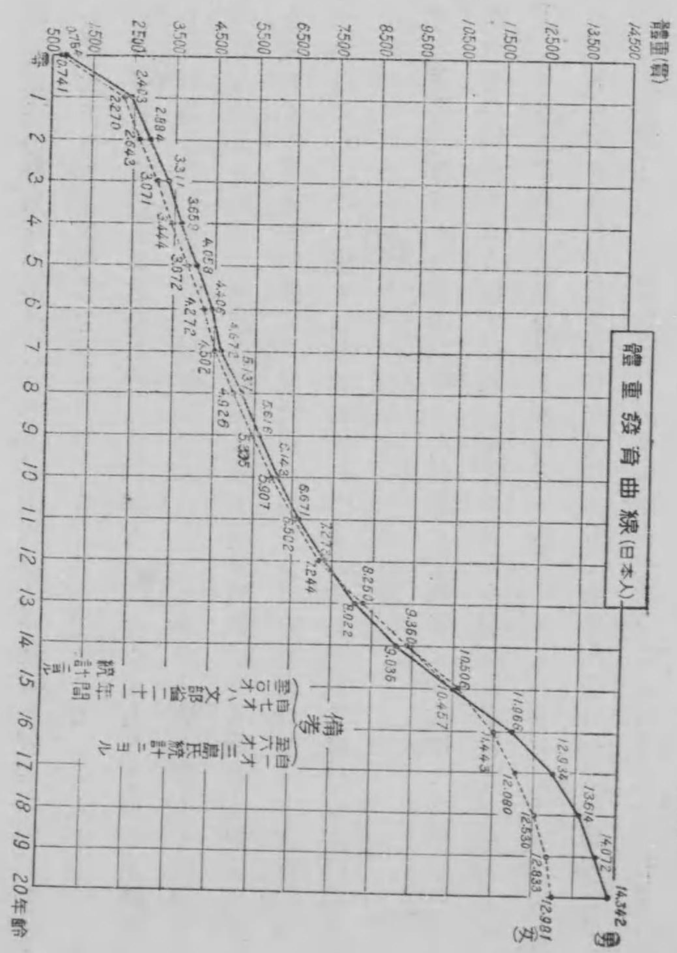
誕生後に於ては發育のために二十年乃至二十五年の歲月が費されるのである

が、體重及身長の增加は、母の胎内に於けるよりは遙かに少く、又その間に於ける變化も彼に比するときは極めて少いのである。併し往々にして吾人が誤つて考へるやうに、子供をそのまゝ擴大したものが大人ではなく、大人をそのまゝ縮少したもの子供ではないのであつて、子供から大人になるまでには、それ〴〵の變化をなすものでありますから、その發育過程に於ては、身體に於ても、精神に於ても各々の特徴をもつものである。從つて、各時期に於ける發育を充分ならしむるためには、各發育過程に於ける身體並に精神的の特徴を知悉し、それに適應せる躾けが最も重要である。

子供の發育は、遺傳とか、健康狀態とか、營養とか、教育とか、或はその他種々なる環境によつて影響せられるので、個人的に差異はあるが、正當な發育をなすものならば、殆んど共通的な發育狀態を示すものである。

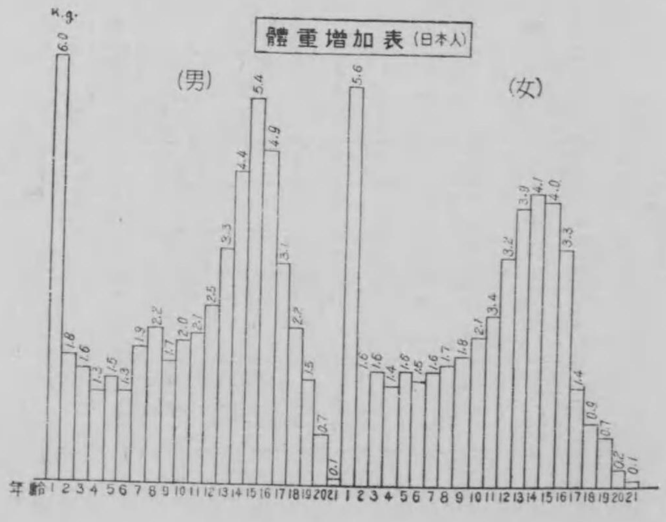
子供は發育期間に於て體量は初生兒に比して約二十倍(第一、二圖參照)となり、身長は約三倍半(第三、四圖參照)となる。その發育狀態を見るに、身體各部は常に均衡

第一圖



に發育するものではない。身長の增加と體重の增加との相互關係を見るに、一歲時代を除いては、一般に身長の增加は年を追ふて減少し、重量の增加は年を追ふて增加する。又體重の增加の著しい頃と、身長の增加の著しい頃との區別がある。例へば、二才から三・四才頃の子は肥つて丸々として居るが、六・七才頃になるとほつそりと伸々して來るものである。それが、八・九才になると又肥つて丸々となり、それが十一・十二・三歲になるとほつそりして來るものである。

第二圖



第三圖

ものである。又乳兒及小兒期は、頭が大きく、胴が長く、四肢が短いものであるが、だん〳〵發育するにつれて、頭の大さよりは身長が多く增加し、顏は大きくなるが、眼や口は小さくなる。身長は伸びるが、その中で胴體は比較的伸びないで、却つて四肢が比較的多く伸びるので、胴體と四肢との割合が變つて來る。斯樣に各時期に於て又身體の各部位によつて、それ〳〵發育の程度を異にするものであり、又身體各部位によつて發育すべき增加量の割合を異にするものである。

フィアオルト Vierordt の調査に從つて

第四圖

身長增加表(日本人)

身體各機關の誕生より成人に至る間の重量增加の割合を示すと次の如くである。

睾丸	六〇倍	筋肉	四八倍	腎臟	一二倍
膵臟	二八	骨格	二六	唾腺	一〇·七
肺臟	二〇	胃及び食道	二〇	甲狀腺	四·五一
脾臟	一八	肝臟	一三·六	眼	一·七
卵巢	一三	心臟	一二·五	胸腺	1/2減
皮膚	一三	脊髓	七	腦髓	三·七
腎囊	〇·九				

肺臟・胃及脾臟は身體全體の發達と略同じく、睾丸及び筋肉は遙に是れに超え、胸腺及眼は是れよりも劣る。前表には記載してないが、發育不全の部分は少しも發達せずして、年と共に消滅するものすらある。故に誕生の際に於ける各部分と、發達後のそれとを比較するときは其の大さの割合は非常に異なるものである。

次に掲ぐる外部の發達の表は多少是を證明するものである。（此の表は便を單位として横幅及縱長の發達を示せるものである。）

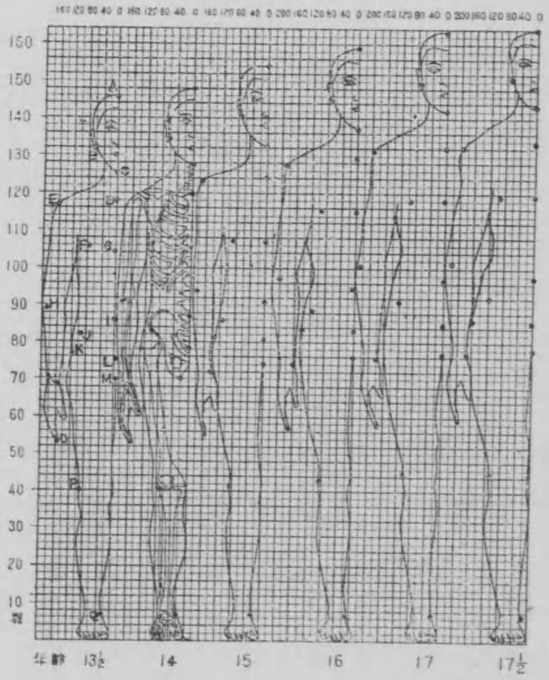
縱の發達	年齡 誕生	〇—三	三—六	六—九	九—一三	一三—一五	十五歲迄の總體の發達	其の後の發達
頂上より眼窠の緣に至る	六	二·六	〇·九	〇·一	〇	〇	三·六	〇·一
眼窠の緣より喉頭に至る	六	四·四	一·九	〇·二	一·一	〇·六	八·二	一·五
喉頭より腋下に至る	三·九	四·七	一·四	〇·七	一·三	一·四	九·五	二·二
腋下より坐骨の頂上に至る	八·三	六·八	一·七	〇·五	一·三	一·一	一二·四	四·五
上膊	六·六	九·三	三·三	三·六	〇·六	三·五	二〇·二	二·二
前膊	七·五	八·〇	四·四	四·六	……	二·三	……	……
手	六·〇	四·二	〇·七	二·二	……	一·九	……	……
上肢の合計	二〇·一	二三·五	八·四	一〇·四	(一二·〇)	七·六	四九·二	六·九
坐骨頂上より膝に至る	一五·二	一四·七	九·三	七·九	四·九	八·一	四四·九	六·一

年	誕生	〇—三	三—六	六—九	九—一五	十五歲迄の總體の發達	其の後の發達
頭	九七	二七	一二	〇六	〇八	五三	一四
頸	六六	〇六	〇八	〇八	〇三	二五	二八
肩	一三七	九三	三八	五二	四	一三三	一四四
胸	一〇五	五五	二六	三八	三六	一五五	五二
臀	一〇五	一八	二四	四〇	二八	一七三	六二
腓の最大なる部分	三三	三三	〇六	〇七	一三	五九	三四
足の最大なる部分	三三	二七	一四	〇六	一	五七	〇六

膝より足蹠に至る	九一	一三三	四六	一六	二四	五八	一七七	三九
足の長さ	八一	五	三	一五	二五	四	一六	一九

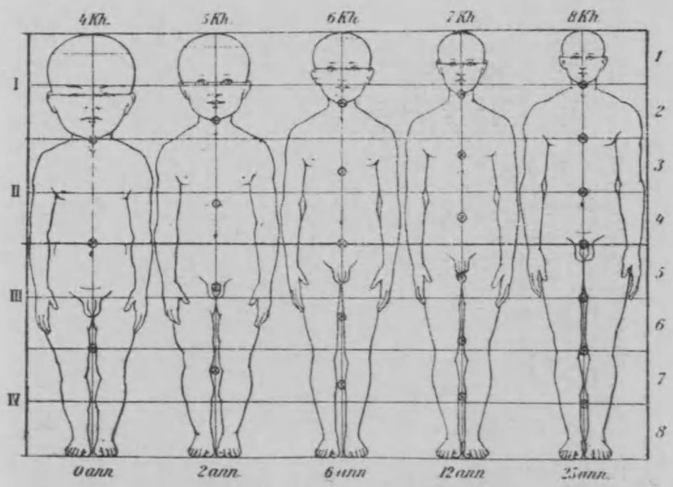
身體全體の發達に就いてはゴーデン Golin 氏が、百人の佛蘭西の學童に就て三萬六千回測定し、青年期の各年齢に於ける發達の標準を定めようとした。その調査に基いて表示された圖が次に示すものである。圖中黑點で記してある十八個の關係點を比較すれば身體各部の變化の割合を測ることが出來るわけである。

第五圖
身體發育に伴ふ各部割合の變化
（ゴーガン氏による）



又次に示すス

第六圖
成長比例圖
（自然大ノ$\frac{1}{2}$・ストラツツ氏による）

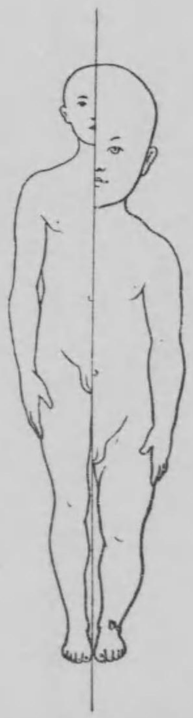


トラツツ Stratz 及びフリツチ Fritsch の調査に基いて表はされた圖の如きは幼兒と成人との身體の各部の割合を一目して知ることが出來る。

吾人の身體の發育は斯くの如き發達經過をとるものであるから、その必然の結果として子供は發育過程の各時期に於ては各々特異な體型を示すものである。

尙又內臟諸器官にありてもその發育は時期によつて異る、心臟及血管は原始より成熟に至る間の變化は極めて多きものゝ一つである。心臟は春機發動期以前と二十八歲若くは三十歲以後とはその發達稍々遲緩するが、尙成年に至るまで其の發達を續けるものであつて、毛細管の變化は一層大である。而して循環系統の變化は殊に生殖機能と關係ある部分に著るしい。

第七圖
成人と初生兒との身體割合
（フリツチ氏による）



ベネケ Benecke の調査によると心臟の容量は初生時に於て二〇—二五立方糎で、生後一ヶ年間にはその二倍に增大し、七ヶ年後に於いては、その四倍に增大して八六—九四立方糎となる。然るに春機發動期から成熟期に於てはその發達極めて著しく初生時の約そ十倍に增大し、成人に至つて約そ初生時の十三倍となる。而

して春機發動期及成熟期に於ける發達は男子は女子よりも約そ三十乃至三十五立方糎大である。

更らに心臓の重量はフィアオルト Vierordt の調査によれば、男子にありては誕生時の十三倍女子にありては十二倍に發達するものである。而して六歳には誕生時の三倍半程であるが春機發動期成熟期に於ては十倍餘に增大するのである。此の增加は單に質量のみならず收縮纖維にも關係するものである。

心臓重量の增加と體重增加との關係をトーマー Thoma の調査によつて見るに、心臓の增大は體重の發達と略其の歩趨を一にし、心臓の重量は體重の〇・四八％に當る。

翻つて血管の發達を見るに、ベネケの調査によれば、次に示す所の第四表の如く

表

年齢	心臓容量（立方糎）	心臓に密接した動脈の周圍（粍）
誕生時	二〇—二五	二〇
滿一歳	四〇—四五	三二
滿三歳	五六—六二	三六
滿七歳	八六—九四	四三
十三乃至十四歳	一二〇—一四〇	五〇
成熟期	二一五—二九〇	六一・五
成人	三六〇—三一〇	六八

第四表　心臓及血管發育

であつて、小兒の時より春機發動期迄は、心臓は小であつて血管は比較的大である。然るに成人に於ては心臓は大であつて血管は比較的狹小である。從つて春機發動期以前は血壓は比較的僅微であるから運動に當つても胸苦しさを感ずることが少い。然しながら小兒の心臓は弱く然も長い勞作には堪へ難きものであるから遊戯運動もはげしきに過ぎて心臓の甚だしき疲勞を招くことは最も注意して避けねばならない。

春期發動期以後になると心臟の大さと血管の太さとの關係、體溫の上昇及び動脈の內容物の增加等によりて血壓は增加する。之れに伴つて生活機能は增加し發達の速度增加するのみならず、精神及び肉體の活動を要求し、此の時期の筋肉、腦髓、胃其の他諸器官の刺戟に特有な感情の昂進を生ずるに至る。

肺臟の發育狀態に就いて考察するに、先づ肺の容積の增大はベネケの調査によれば次表の如くである。

第五表
發育肺容積と身長比較表

年齡	身長(糎)	肺容積(立方糎)	身長一〇〇糎に就きての肺の容積
七歲	一一二	六〇〇—七〇〇	五三〇—六二〇
十三歲	一四〇—一五〇	九〇〇—一〇〇〇	六四〇—七一〇
十四歲	一六七—一七五	一四〇〇—一七〇〇	八二〇—一·〇五〇
成熟期			

又、エーピーの調査によれば次表の如くである。

第六表
肺容積增大表

年齡	兩肺容積(立方糎)	右肺同上	左肺同上
初生兒	五七、七	三八、四	二九、三
四歲	四三〇	二五〇	一八〇
八歲	五二七	二八〇	二四七
十五歲(男)	六二六	三五四	二七二
同(女)	七〇一	二九六	四〇五
成人(男)	一六一七	八七三	七四四
同(女)	一二八八、三	七〇五	五八三、三

即ち、肺臟は春機發動期に於て著しい增大をなすものであることを知る。

肺の重量については第七表に示すが如くフィアオルトは初生兒より成人に至るまでに約二〇倍の重量增加をなすと言ひ又ガンドビンの調査によれば、第八表に示すが如くであつて、その發育經過は容積の增大と略同樣である。

第八表

肺重量發育表

（ガンドビン氏調査）

年齢	體重(瓦)	兩肺(瓦)	右肺(瓦)	左肺(瓦)
初生兒	30 5	57.0	32 0	25.0
1—2歳	10400	225.2	124 6	100.6
2—3	12770	218.9	1 8.6	100.3
3—4	135.0	247.2	130.6	116.6
4—5	15430	269.2	145.6	123.6
5—6	17000	352.0	187.0	165.0
6—7	18980	419.0	228.0	191.0
8—9	20300	455.0	250.0	205.0
9—10	29680	395.0	210.0	185.0
13—14	29 400	413.0	215.0	198.0
14—15	359.0	594.0	330.0	164.0
15—16	——	690.0	370.0	320.0

第七表

內臟發育表（フーアオルト調査）

年齢	體重	腦	心臟	右肺	左肺
0 月	1	1	1	1	1
1	1.10	1.22	0.73	0.89	1.10
2.3	1.44	1.44	0.72	——	
4.5.6.	1.91	1.69	0.96	1 41	1.88
7.8.9.	2.39	1.94	1.25	2.03	2 2
10.11	2.65	——	1.43	3.40	——
1 年	2.90	2.48	1.75	2.76	3.03
1 1/4	2.89	2.01	1.88	——	——
1 1/2	3.12	2.67	2.01	——	——
1 3/4	3.27	2.83	1.97	——	——
2	3.55	2 69	2. 0	3.36	3.44
2 1/2	3.52	3.04	2.68	4.54	——
3	4.03	2.91	2.75	4.58	4. 4
3 1/2	——	3.28	2.44	——	——
4	4.52	3.49	3.14	5 18	6.13
5	5.13	3.32	3.43	4.35	4.63
6	5.74	3.57	3.60	——	——
7	6 35	3.54	3.95	6.25	7.20
8	6.97	3.62	4.02	——	——
9	7.58	3 74	4.59	6.29	7.01
10	8.13	3.70	5.41	7.32	10.44
11	8.71	3.57	5.97	7 33	9.60
12	9.35	3.78	(4.13)	7.95	7.32
13	10.68	3.90	6.95	8.27	8.74
14	11 97	3.33	9.16	13.73	11.86
15	13.29	3.91	8.45	12.67	15 38
16	14.81	3 77	9.76	13.89	13 72
17	16.03	3.70	10.63	14.23	14.35
18	17. 9	3.73	10.33	16.07	15.98
19	18.58	3.67	11.42	17.67	19 11
20	19.19	3.79	12 94	17.01	18.78
21	19.74	3.71	12.59	16 10	19.14
22	20.29	3.54	13.24	17.42	19.75
23	20.81	3.66	12.42	16.29	18.24
24	——	3.74	13.00	17.36	18.30
25	21.36	3.76	12.74	16.97	20.14

肺活量の如きは年齢の進むに從つて漸次增加するものであるが、春機發動期に於ては其の增加は著しい。第九表によるもその經過の大體を知ることが出來る。

第九表

年齢別肺活量表

年齢	肺活量（ヘスチング氏）cc.	肺活量（コーテルマン氏）cc.	肺活量（スメツドレー氏）cc.	男女差
5	670	—	—	
6	830	—	1.023 (950)	.073
7	990	—	1.168 (1.165)	3
8	1.150	—	1.369 (1.165)	.204
9	1.330	1.771	1.469 (1.286)	.183
10	1.480	1.865	1.603 (1.406)	.194
11	1.660	2.022	1.7 2 (1.526)	.206
12	1.830	2.177	1.883 (1.664)	.219
13	2 030	2.270	2 108 (1.827)	.281
14	2.300	2 496	2.395 (1.014)	.381
15	2.360	—	2.697 (2.168)	.529
16	3.140	—	3.120 (2.268)	.852
17	—	—	3.483 (2.319)	1.164
18	—	—	2.655 (2,343)	1.312
19	—	3.891		

備考.括弧内ハ女子

殊に肺活量の男女の差は幼少の頃は僅少であるが年齢の進むに從つて增加し春機發動期に及んで著しいことを知る。之れは女子體育の上考慮さるべき問題である。

腦の發達に就いて見ても、大腦以外の部分は早期に發達する、大腦は最も遲れて發達するのである。大腦に於ては感覺中樞は早く發達完成し、運動中樞は稍々遲れて發達し、綜合中樞は最後に發達完成するのである。而して學齡以前は大腦の量的發達の時機であつて、學齡期は其質的發達の時期で、春機發動期以後は主として綜合纖維の發達時期と言ふことが出來よう。

フィアオルトの調査によれば、既に第七表に示したやうに、腦髓の重量は誕生の初年に二倍乃至二倍半に增加し、それより漸次增加して、四年目に於てはその一ヶ年間に於て殆んど量的の發達は完成せらる、其の後は僅かに發達して、春機發動期に於て全く發達の頂點に達するものである。然るに質的には尙變化を營むもので

あり、その機能の發達は尚益々進展せられつゝあるのである。

其の他、肉或は骨等の成分を見ても子供と大人との間には明かに大なる相違を見出すのである。斯くの如き大人の身體と子供の身體とは其の量に於てのみならず質に於ても又型體に於ても或は機能に於ても差異があるのである。これと同時に精神作用に於ても亦同樣に兩者の間には明かに差異あるものである。

精神物理的作用の發達を知るために反應時の年齡的關係をエール大學に於て調査せられた成績に見るに第十、十一表の如く反應の速さは年齡と共に進み、春機發動期に入る前は進歩を緩め、後再び速力を增加するのである。而して單反應に於ては男子は女子より速かであるが、複雜反應に於ては男女の差は少くして往々相等しきに至る。即ち男子は身體動作の速かなる點に於て稍々女子に優れども、精神的動作は男女間に大差なきを示す。

第十表

簡單反應時

年齡	男	女
6	28.2	36.5
7	36.7	31.5
8	24.5	26.0
9	24.3	25.5
10	21.0	22.5
11	18.5	20.6
12	17.8	19.8
13	17.8	20.5
14	18.0	18.7
15	16.7	18.9
16	14.7	17.2
17	14.7	16.3

第十一表

複雜反應時

（辨別及選擇）

年齡	男	女
6	53.5	51.0
7	49.0	52.8
8	48.0	47.5
9	44.5	46.0
10	40.0	41.0
11	38.7	38.8
12	38.5	37.0
13	36.0	41.5
14	36.7	35.5
15	31.1	34.5
16	31.5	35.0
17	30.5	31.5

又シカゴ市に於ける研究によれば簡單反應に於ては八歲迄は著しく增進し、爾後一年間は增進の度を減じ其の後十二歲迄は再び著しく增進し、其後男子は十四歲迄停滯し女子は僅かに增進し、其の後十六歲迄は再び著しく增進すると言ふ。複雜反應識別及選擇に於ては十歲迄は增進の傾向ありて其の後女子は十二歲迄增進の度を減じ、十三歲より十四歲まで著しく增進し、男子は十三歲迄引き續き增進し、其の後一年間は增進の度を減じ、其の後の一年間は著しく增進し、十五歲以後は男子に於ては少しく增進し、女子に於ては却つて減退すると言ふ。

注意記憶聯想及び感情の發育に關しては、楠博士が實驗心理學的方法に依り測

定し、各精神機能測定結果の算術的平均數を以て精神發育の經過を示し、之れを精神發育曲線と名づけた。精神發育曲線は發育經過に於て波狀動搖を示し年齡と共に漸進する。男子は八・五歲から一〇・五歲に至る間は急激に發育し、これより一一・五歲迄は發育殆ど停止し、これより一二・六歲迄は再び急激に發育し、これより一三・五歲迄は發育遲鈍となり、これより一七・九年迄は發育益々遲鈍となる。これより二〇・一歲に至る迄は殆んど一直線を以て經過し發育全く停止する、即ち全平均精神曲線は、男子は一七・九歲に於て完全に發育停止をなすものである。

女子の精神發育は八・七歲より九・五歲迄急激に增進し、一〇・五歲に於ては聯想の發達が劣るため全精神發育は遲鈍となる。一二・七歲及び一三・七歲は春情期の發育遲鈍時期に移り、一四・七歲より著しく增進し一八・四歲に至りて發育の頂點に達す。而して一歲以上の年齡に於ては男子よりも優秀である。

要するに身體並びに精神の發達は各時期によりて特有の經過を示すものである。此の發育狀態を研究するために發育期を區劃してゐる學者がある。その主なるものを見るに、齒牙の發育を基礎として、無齒哺乳期(誕生より一ヶ年)乳齒期(一歲より七歲迄)永久齒期(八歲より二十歲迄)の三期に分ち、尙それに性的特徵を考慮して、乳兒期(初生より一ヶ年)中性小兒期(二歲より七歲迄)兩性少年期(八歲より十五歲迄)成熟期(十六歲より二十歲迄)の四期に分つて居る。之等の期間の中第一は無齒期、第二は乳齒期第三、第四は永久齒期に相當する。七歲までの子供の身體は中性であり、精神狀態も性的特徵は著しくないが、八歲頃から男性或は女性の第二次的性的特徵がより明瞭に現はれて、男は筋肉の發育が盛んとなり强くたくましい身體の基礎的發達がなされるに反し、女は皮下脂肪が多く增加し初めて、身體に丸味が出來、柔かい曲線美が發達する、乳兒の頃は皮下脂肪は平均して全身に及んで居るが、少女期になると、乳房とか、臀部とかに增加の傾向をもち、處女期に至つて腓腸部、膊の周圍等に增加して性的特徵は完成する。

更らに發育狀態の特徵を考察するに、前に述べたるが如く、二歲より三・四歲の頃と、八・九・十歲の頃とは、體重の增加著しく、體は丸々して居るし、五・六・七歲の頃と、十一

歳より十五歳頃とは身長の增加著しくほつそりして居る。之れによつて、中性小兒期を、第一豐滿期(二歳より四歳迄)第一伸張期(五歳より七歳)の二期に分ち、兩性少年期を第二豐滿期(八歳より十歳)第二伸張期(十一歳より十五歳)の二期に分つ。之れを吾人が普通呼びなれて居る名稱を用ゆるならば、第一期を、乳兒第二期(中性小兒期)を小兒、第三期(兩性少年期)を少年少女、第四期(成熟期)を青年、處女と言ふことが出來る。

第十二表
遊戯期との關係
發育期と

遊戯期	發育期	年齢
第一遊戯期	I.乳兒期	1
	II.中性兒童期	
	a第一豐滿期	2 3 4
	b第一伸長期	5 6 7
第二遊戯期	III.兩性兒童期	
	a第二豐滿期	8 9 10
第三遊戯期	b第二伸長期	11 12 13 14 15
第四遊戯期	IV成熟期	16 17 18 19 20

之れを前記遊戯期と對照するときは、第一遊戯期は、乳兒期と中性小兒期を含み、第二遊戯期は第二豐滿期に相當し、第三遊戯期は第二伸張期に相當し、第四遊戯期は成熟期に相當す。即ち之れを表示すれば第十二表のやうである。

第三節　第一遊戯期(誕生より七歳迄)

人が此の世に產み出された瞬間は、極めて大きな突然の變化に驚いて叫び聲を發するものである、これを此の世への最初の挨拶としてこれから彼等の新らし世界での生活が始まるのである。母の胎內にあつた頃は、酸素の需要は母の血液より得て居たのに、出生と共にその源は斷れたので、子供は窒息者のやうに酸素の不足を感じて、深呼吸を始める、そこで今迄空しかつた小さな肺は空氣によつて滿されるのである。即ち血液呼吸は肺呼吸に代る。その後は益々盛んに呼吸をする。そうして今迄と異つた不慣な狀態に就いての不平を述べる小さな叫び聲は相繼いで聞かれるのである。

斯くて默想の時代は過ぎて、生存競爭への第一歩として雄々しくも此の若き國

民は、安寧ををびやかす最初の妨害に對して自由の行動を始めるのである。此の變化には誰もが同樣に遭遇するのであつて、然も此の出產てふ人生への難關を通過する際には、後年に於ける美と健康とに對する運命が授けられるのである。多くの母親はよくこれを知つてゐる。殊に若き母親は出產するや否や、今迄の苦痛は全く忘れたものゝ如く、滿面に幸福の微笑をたゝえながら、第一に發する質問は男兒なりや女兒なりやの問題でこれに次ぐに子供に異常はないか、而して總てが子供のために好都合であつたかどうかの問題である。

第八圖
第一呼吸

母胎よりの酸素の供給が急に斷たれた子供は窒息者のやうに酸素の不足を感じて深呼吸を始め、空しかつた小さな肺は空氣によつて滿されるのである。

第九圖
初生兒の沐浴

膨れた小さな顏は出生後の不調和と冷々した空氣と嫁な水に對する不平に就いての小さき者の全叛逆を表よして居る。擴げた指趾は盛んなる叛抗の表徵を助けてゐる。

普通初生兒の體重は七百四十匁から七百八十匁位で、一年の間に約そ此の二倍即ち一貫六百匁位增加して、一歲の終りには二貫四百匁程になる。次の二、三、四の三ヶ年間即ち第一豐滿期に於ては、二歲の最初に於ける體重の凡そ八割を增加して四歲の終りには三貫六百匁餘となり、次の第一伸張期の三ヶ年に於ては、僅かに、五歲の最初に於ける體重の凡そ三割を增加するのみで七歲の終りには四貫六百匁餘となる。

總てが都合よく出產せられた子供は、出產に際して多少の障碍は受けたとしても、多くの場合良好なる生長によつて充分恢復し得るものである。

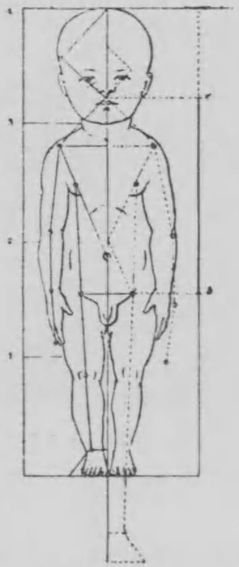
初生兒の身長は一尺五六寸位であつて、最初の一ヶ年間には凡そ此の半分位增

加して二尺四寸程にとなる。倘健康な赤坊であれば丸々と肥つて、皮膚は薔薇色黄色を呈し、上腿の内側を上膊と膝・足頸・肘・手頸等に於て横皺が出來てゐる。第一豐滿期の三ヶ年間には、二歳の最初に於ける身長の凡そ三割を增加して、四歳の終に於ては約そ三尺

第十圖
誕生より二十四日目

其の肉體の立派な豐滿・顏付の幸福さうな安穩は彼の運命と和合して新らしき環境に生きんとすることを確證して居る。

第十一圖
初生兒身體比例



右體半分に實際在つた子供の身體の割合を示し、左體半分に標準的のものを示してあゝ。

之れに據れば頭は大きすぎ脚は短かすぎ臂は重要な部分だけ小さすぎる。

小さい脚と大きい薄毛の生えた頭と不滿足な小さな顏とを持つて居る此の創造物は局外者には少くとも美しいとは思はれまい。

程に生長し二歳の初めは全身長は頭高の四倍半であつたものが、四歳の終りには五倍半となる。次の第一伸張期の三ヶ年間には、五歳の初めの身長の約そ二割半を增加して、三尺五寸餘となる。而して五歳の初めには全身長は頭高の五倍半であつたものが、七歳の終りには六倍餘となる。即ち四歳頃までは丸味豐かな身體が五歳頃から細長くなりかけるのである。

第十二圖
兒童　十歳　一歳

一歳の標準的男兒を示す。身長75cmに於て1/4頭高を有して居る。彼は覺束なげな樣子で立つて居る。上腿內部に於ける橫皺はどうやら立つて覺束なげな步行は始めるがまだ充分ではないと言ふ肉體的の表徵である。

頭部は頭蓋が大きく。體型は此の年齡に適合した丸味を示してゐる。

初生兒は頭が大きく、顏に比して眼が大きい。全身長に比して胴が長く、四肢は短い。胴體は圓壔形をなし、胸部は腰部と共に廣く、腹は周圍が太く且つ胸、腰部と共に丸味を帶びてゐる。

二歳から三、四歳頃になると脚が伸張し、身體の中心が下降する。二歳の頃は臍の高さに在り三歳で少し下り、四歳では殆んど下腹線まで低下するので運動してもだん〳〵倒ぶことが少くなるわけである。胴體の長さは全身長に比して生長する率は少い、頸は長くなり、

第十三圖
兒男の歳四、三、二

之れは各年齢に於ける一般的の生長型の標準的なものを示す。

第十四圖
兒男の歳三、二

此の圖を前圖と比較すると二歳の男は何れも同樣であるが三歳の男兒は前圖に比して細長い體型を示して居る。斯る生長型は特殊なもので一般生長型と同時に現はれることがある。

關節は自由に且つ良く運動するやうになる。一年の終りに於て八本の切齒が生え、二年には概ね四本の犬齒と八本の臼齒、三年の初めにはそれで顏は二歳及び三歳の時に最も變化し、四歳から七歳迄に固定する。齒の生えるため顏面は顎部に於て最も著しく伸張し、それがために鼻は長くなり、口は廣くなる。

乳齒列が完成し、七年の終になつて四本の第三永久臼齒が生える。

初生兒の脚はO字脚であるが、安全に立つて歩き出すようになると、漸次正常になる。然し餘り早くから無理に歩かせると却つて×脚を生ぜしむる原因となるから注意せねばならない。

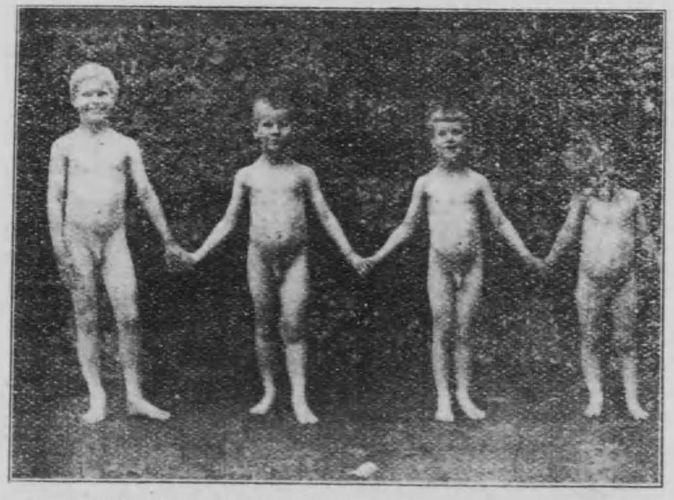
第十五圖
男歳三と兒女歳四兒

第一豐滿期に於ける丸味をよく現はして居る。足軸は眞直であり、關節は狹く且つ細長い。之れ佝僂病を決定すべき重要な表徴である。第二趾は第一趾より少し長い、之れは良好な發達を現はすものである。兩足は極めてよく發達して居る。それが惡い裏物や狹過ぎる靴によつてその發達を破壞するのである。

三歳になつて、乳齒列は完全となり、端正な歩行をなし、正確な言語を操るやうになり純な子供らしい發達をなして行く。運動機關は益々發達し、消化器關は或意味から言ふと退歩し其の表はれとして、腹部は小さくなり、腹腔と下腹線は愈々相一致する。併し心臟や肺臟は盛んに發育するので、胸部は大きくなる。

乳兒にとつては安寧が必要であるにも拘らず、心得のない者は赤坊を愚かな言葉や、高聲な呼びかけや、ガラ〳〵や、鈴などを振り鳴らして驚かしたり、或は彼をみだりに抱き上げたり、持ち廻つたり、振つたり搖つたりして、赤坊を障碍して飽くことを知らぬやうなことがあるが、それは赤坊にとつては大禁物であるから、決してやうなことがあつてはならない。併し各器關の作用や筋肉等が發達すると、子供は極めて不思議な身振をする、それを見てゐるとたまらなく愉快な美しさを感ずる。それは可愛い顔や、軟い身體が遊戯に熱心なつたことを反映するばかりでなく、精神的の喜びや悲しみをも濁りのない自然のまゝに反映するからである。よく發達して健康なる子供は遊戯を非常に好むもの

第十六圖
四歲の女兒と六·七·八歲の男兒

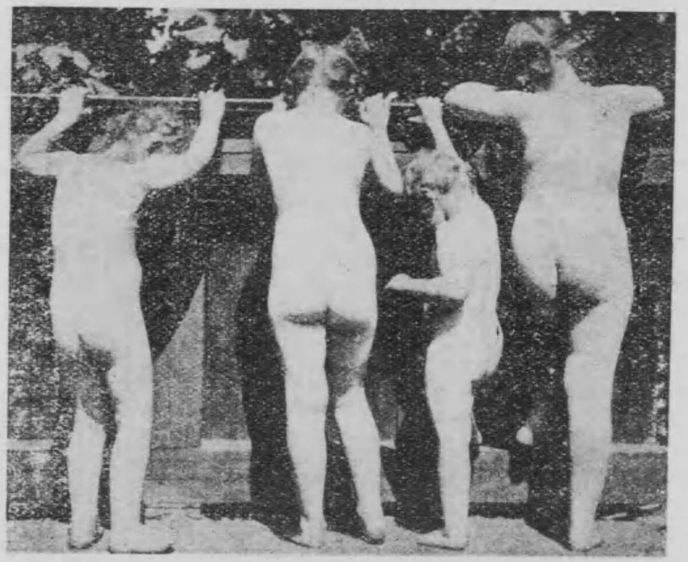


四歲の女兒は第一豐滿期に在り、六·七歲の男兒は第一伸長期にあり、八歲の男兒はまだ丸い子供らしい體型と子供らしい表情とは失はないが既に中性兒童期を終つて兩性兒童期の第二豐滿期に入つた。何れもそれぞれの特徵を明かに表はしてゐる。

であり、遊戲に夢中になつてゐる子供を見る程美しい眺は他にはない。

性別に關しては、初生兒にありては初期の生殖器と女兒の些か體重の少きことより以外には未だ差別はない、唯、二歲三歲と發育するに隨つて男兒は身長及體重に於て女兒を凌ぐやうになるが、七歲まで殆んど性的の特徵は認め得ない。

第十七圖
三歲の男兒と四·七·八歲の女兒



著しく丸味を帶びた體型は何れも發達の眞好なことを現はしてゐる。三歲の男と四歲の女兒とは第一豐滿期に七歲の女兒は第二伸長期に八歲の女兒は既に第二豐滿期に入つてゐる。何れもその特徵を示してゐる。

總ての初生兒は中耳に未だ空氣が滿されて居らないので、音響を導くことが出來ないからである。

音響を聞き得るやうになるには約七日の日數を要する。生後八週間位になると聞きなれぬ音がするとその方を向くようになる。十週間程もすると音樂を聞いて笑

ふやうになる。更に筋肉運動を伴ひ得るやうになると、卓子茶盆の上を匙などで打つて非常に喜ぶやうになる。第二年目の初期になると音響遊戯は非常に共通な遊びとして喜んで迎へられる。鶏の鳴く聲や、あらゆる種類の珍らしい音響を眞似るのは言語を發せんとする最初の試みである。

眼は光感を得てゐるが、まだ見ることは出來ない。そうして兩眼は單一に運動して、一眼が開いて居るときも、他眼は閉ぢて居る。兩眼が開いて居る時は若き母親は小兒が藪睨をして居るのではないかと心配することが多い程である。然し、二、三ケ月もすると兩眼の運動は相伴つてするやうになる。次いで、三、四ケ月を經過すると、運動する物體を目送することが出來るやうになり、五ケ月を經過すれば遠望近業に對する調節作用が出來るやうになる。色覺は生後三十日位より發達し始め、黄赤等の波長の長さ色の感覺が發達し、次で綠青等の波長の色の感覺が發達するのである、斯くて生後二年を經過すれば、黄赤綠青等を知るやうになる。ブレエール氏 Flyeur に依れば、生後七週間もするとキラ〳〵光る物を見つめ手を伸ばして、之れを摑まうとするやうになる。

初生兒の感情は痛感によつて漸次端緒が開かれる。生後直ちに現はれて、初生兒に氣持の良い印象を與ふる唯一の感覺は味覺である。口の突起は小兒に生れつきであり、乳を吸ふことは巧妙で成人と雖もその眞似はしても出來ない程である。

初生兒の精神は筆紙に書くことの出來ないものである。ブレーエル氏 Flyeur に依れば、錯綜した線圖を以て敵へる一葉の紙である。而して其の上にはだんだんに讀み得る文字が現はれて來ると言つたようなものである。而して初めには植物的機能が發達してゐるが、二、三歳の頃からは植物的機能は動物的機能に敵はれ、精神作用は各方面に亘つて著しい發達をなすものである。

運動器關の發育を見るに、先づ骨については幼年時代は有機質は骨全重量の三分の二以上を占めるため軟く然も彈力性に富むが故に、折れることは少いが、壓を加へると曲り易いから、幼年者には姿勢を良好にすること、早くより強いて立たせ

たり、長く歩かせたりしないこと等が肝要である。筋肉はその重量に於て初生兒より成人に至るまでの間に約四十八倍の增加をなし、初生兒にあつては體重の二三%、八歳に至つて二七・二%、十五歳には三二・六%、十六歳には四四・二%、二十六歳には四五・〇%に增加する（ミュールマン氏）。筋纖維の太さは初生兒にて平均五―一〇ミクロンなれど、一年後には二八ミクロンとなり、成人にては三六ミクロンとなる（ウエストファール氏）。又筋纖維數は縫匠筋に就きマックカラム氏の調査した處によれば、初生兒には一三六、四〇六箇であるが、成人には一四二、一一八箇である。尙筋の化學的成分を見るに、初生兒には水分多く、成人には固形成分が多い、即ち筋の成分は年齡の進むに從つて濃厚となり、筋内に於ける化學的變化は敏活に行はれ、大なる活力を發揮し得るに至るものである。筋力も亦年齡と共に增加するものであるから幼年者にあつては强い運動や激しい運動には堪へ得られない。

幼兒の遊戯は蹴つたり、足を伸ばしたりする簡單な肉體的動作である。然しこれから生ずる快感は一層複雜な動作に通じ、匍つたり、歩行したりする最初の試を促す。幼兒遊戯の他の形式は感覺器關で事物を實際に經驗して行くことである。幼兒は新らしい物をいぢるのは常に歡喜の源泉であつて、殊に滑かな形狀に見えたものは最大の快樂を與へるらしい。赤坊が滑かなものを日の所まで持つてきて、一層親密な仲よしだと言はんばかりの樣子をするのを見ても分る。又物を摑んだり、落したりするのは總ての赤坊の好きな遊びで、其れが少し發達すると搖籃或は乳母車から物を投げ出す、そうして誰かそれを拾つてやれば、何時までも同じことを繰り返へす。此の快樂は「自分が何かの原因となることの喜びだ」と敍されてゐる。

第十八圖
生後四週間の赤兒の動作

四肢の屈伸や頭、軀幹の簡單な運動をなして喜んで居る。

第十九圖
生後三ヶ月半の小兒の動作

三ヶ月、四ヶ月目に於て大概は腹這つて腕にて支へて頭を自ら擧げ得るに至る。

模倣動作は生後七、八ヶ月に始まり、子供はこれを非常に好むもので、如何なる動作でも一度獲得されると、よく繰り返へし繰り返へし行ふ、斯く反復することに快樂を覺える。然もその動作に熟練して來る。ブレヤ氏は、一年二ヶ月の子供が鑵の蓋を續け樣に七十九回も外したり、嵌めたりしたと言つて居る。

感覺の發達、頭腦の成育、並に筋肉運動の制御支配に聯關した凡ゆる形式の經驗や實驗は乳兒時代の特徴である。子供が歩き得るやうになると經驗並に模倣に從つて遊戯の同一形式が持續されるが、然し、前よりは遙かに大なる範圍に於て行はれるのは必然なことである。ブランコをしたり、車を曳いたり、押したり、倚子に乘つたり、下りたりすることは新らしい感情を生じ、力能の感念を與へ、それがために非常に好きな遊戯となる。

第十二圖
生後六ヶ月兒の動作

此の頃になると支へがあると立つやうになる。

子供が四、五歳に達すると、輪廻しは日々の行爲を劇化したものなので非常に喜ばれる。尚、斯うした日常の行爲を模倣し劇化した遊戯の幾種かが喜び迎へらるるのであるが、それ等の遊戯の中に日常生活の仕事は繼續して繰り返へされてゐる。

三歳より六歳迄の子供にもつとも人氣のある一般的な遊戯は、古い然も光榮ある泥饅頭の遊戯である。貧民窟の子供が街道で遊んでゐるのを見たことがあるが、四、五歳の小さな子供が戸口に坐つて、古びた鑵や、紙製の袋や、燐寸箱などに泥や砂を一杯いれてゐる、鑵に一杯になると今度は一々丁寧に又空つぽにする、これが

泥饅頭の遊戯で、其れに夢中になつてゐる子供達は其れ以上のよい物は何もいらない。六歳にもなると手を多く使ひたがる。此の頃の子供は心地よき手觸りのよい、然も思ふ通りになる砂を穴の中に入れる遊びに熱中する。此の年頃の子供を海邊で遊ばせたら砂遊びで全く大喜びであるが、それは何故であるか。其れは砂は泥饅頭の遊戯に理想的な物質であるからである。ジョセフ・リーは言つて居る「砂は赤坊の手の細工に何等か關係があると信ずるのである」と。赤坊の手は人類が海濱に住む兩棲動物であつた古い時代からの習慣で砂を覺えてゐる樣に見える。故に此の頃の年齢の子供を持つてゐる家の裏庭には砂場を作るがよい。即ち深さ一尺ばかりで幅や長さは夫々八尺か十尺の木製の箱に砂を入れ、それに一枚の板を渡し錫の桶やコテ及び砂山を築いたり、城を篩る棒切れ等を準備すれば充分である。少くも六歳頃迄の子供は砂遊で健康にもなり、賢明にもなり、大きくもなると言つて敢て過言ではないのである。

六歳から十一歳は劇化遊戯の特殊の期間である。ハックスレイ氏 Mr. Huxly は「ザリ蟹かどう感じてゐるかを知る唯一の方法は、ザリ蟹になることである」と言つてゐるが、此の年頃の子供は、自分が馬であつたらどう感ずるだらうと言ふことに興味を持つてゐる。蒸氣罐關であつたらどう、鳥であつたらどう、店員であつたらどうだらうなどと想像を逞しうする。そうして之等の馬、鳥等はどうであるかを知る唯一の方法は、其の馬、鳥になることであると子供は考へる。そこで子供は馬の樣に踏んだり、前足でかいたりする。蒸氣罐關のやうにフーフー言つたり、口笛を吹いたりする。或は砂糖を賣る父の眞似をしたり、縫ひ物をする母の眞似をしたりする。斯くして子供は自分の周圍のありふれた事物に親しんで來る。

此の間には玩具は少ししか要らない。然し人形遊びが大切な意味を持つ時期であるから、此の頃の子供の遊戯には人形樣が大活躍をしなければならない。然も人形は「何々である」ときちんと決つてゐない人形が宜しい。又手の凝つた玩具は好まない。其の理由は簡單である。即ち融通が利いて、子供が自分の思ふ通りの好きなものにすることの出來る玩具を子供は要求するからである。丹誠して

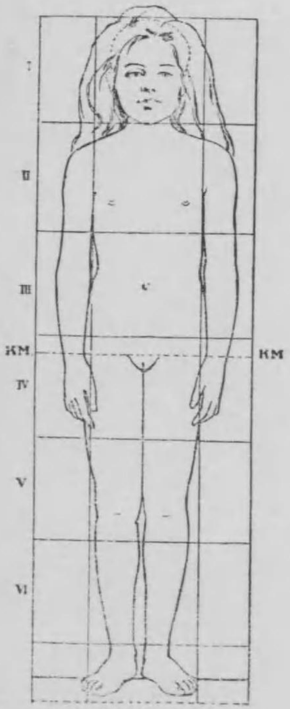
作つた人形でほんとうの赤坊そつくりのものや、生き鷹の像とか、或は喜劇女優の像は一つの役割に固定されてゐる。又手押車を押して歩く器械的の人間は唯一の藝能しか持たぬ。彼等は他の者には一寸もなれない。斯う言ふやうに固定したものとか、器械的に動く玩具とかは一寸も子供に好かれない。假令子供の氣に入つたとしても、それは何か他にその人形に固定的でない附帶の性質のあるためで、その性質は大人には氣付かれないし、又恐らく少しもその人形の働きに關係のないものである。此の時期の玩具で男の子にも又女の子にも一番好かれるのは通例、或る型をした人形である。又屢々單なる棒切れに對して愛情や嫌惡の情を感じて、それが子供の良い遊び相手となる。時には木馬となつたり、兎となつたり、或は時には人形となつたりする。吾々大人にはどう見え、又從來どう見えたにしても、子供には依然として玩具である。此の玩具は子供の喜びも悲しみも分ち、物こそ言はないが、彼の最も親しい友であり、厚い信用を受けてゐる。どの親でも七歳以下の子供の遊戯の斯うした特徴を熟知してゐることだらうが、子供の玩具遊を見ると子供と玩具とは全く一體のやうに見える。

お人形樣は何處にでも子供のお伴をするに違ひない。御褒美や罰も共に分ち、夜になればお休みの接吻をして貰ひ、朝になればお早ふの挨拶をして貰ふにちがひない。それは何故だらう。恐らく斯ふ言ふ遊戯をする時期が自己といふものの自覺が覺醒した時期と符合してゐると言ふことが此の説明の手掛りとも言へるだらう。子供が自分と言ふものを感じ始めるのは非常に急に起るものである。私は五歳の子供が梯子段の上で泣いてゐるのを見たことがある。その泣いた譯は、素敵に恐ろしいわれるやうな泣き聲が終つてから暫く經てわかるので、何故泣きましたかと問ふと、その唯一の説明と言ふのは「つい自分のことを考へてゐたからです」と言ふ答である。恐らく子供が自己を感ずる最初の起りは、非常に強いために感情を激動させるのであらう。此の感情を和げるために自分以外にもう一つの自分と同樣のものを考へて見る、それがお人形遊びとなるのである。それがやがて同情と言ふ情操の發達を促すことになる。要するに此の期間の特徴的遊

戯を概說すれば經驗及び筋肉制御の模倣及經驗の擴大である。

第四節　第二遊戯期(七歳より十六歳迄)

第二十一圖
八歳兒の身體



八歳の少女は身長125 cmで頭高の6¼倍より稍々多い
胴は頭高の2¼倍.臂はその2¼倍.脚はその3¼倍を有す。
身體中心は恥骨部にある。
顔と身體とは純子供らしき樣子あり.脛より腿及臂は少女に特有な丸味を示してゐる。

此の時期は兩性兒童期中の第二豐滿期に相當する。此の時期に於ける著しい變化は齒牙の交換と永久齒の完成である。これに伴つて顎面は全體として大きさを增すが,殊に顎が生長し顔はより大きく,より長くなる。其れ故に兩性兒童期の子供の男女に共通な特徵は,丸い子供顔が長卵形の青年顔となる變化が始まることである。それと共に容貌や顔の表情に固定的の特性が現はれ,以前からほのみえてゐた家族の人々に類似する所は此の頃から一層明瞭となる。併し尙此の時期にありては子供らしさを失はない。

身長は三尺六寸七分から三尺九寸八分で,頭高は身長の六 1/4 から六 1/2 に生長し,體重は男子は,五貫百三十七匁より六貫百四十三匁で,女子は四貫九百二十六匁から五貫九百七匁に增加す。年々の身長增加は八歳では,四.五糎,九歳では四.七糎,十歳では四.五糎であり,年々の體重增加は八歳の男子は二.二瓩,女子は一.七瓩,九歳の男子は一.七瓩,女子は一.八瓩,十歳の男子は二瓩,女子は二.一瓩を算す。斯くの如く身長增加は第一兒童期に比すれば僅少であるが,體重增加は殆んど同樣である。

これがため甚だしく廣さの增加を來す。即ち、男兒にありては胸、肩が廣くなり、女兒では腰、臀部及び上腿の廣さを增加する。かくて身體の第二次的性的特徵が現はれ始めるのである。それも男子は此の全期間を通じて子供らしい體型が保持

第二十二圖
八歲の女兒十歲と兒男の

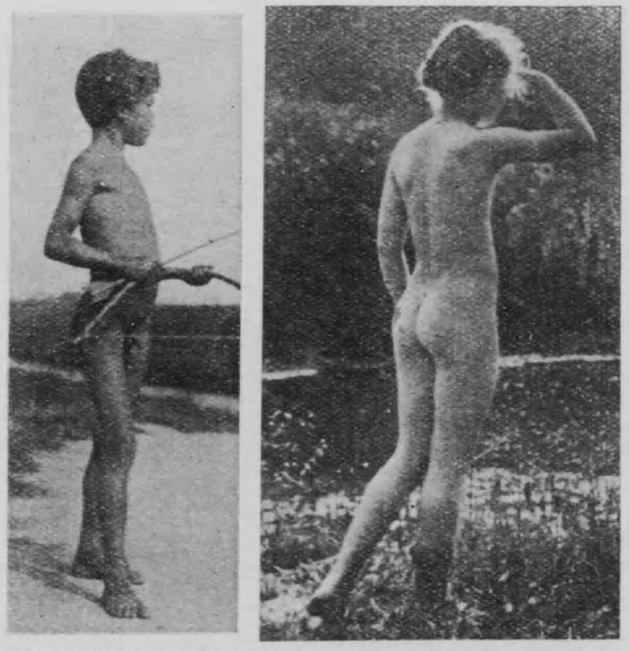
此の二人は姉と弟とであつて姉は十歲弟は八歲である。此の體型は第二嬰滿期の始めと終りとの標式的代表である。兩人とも第一嬰滿に較べると細長し、次の第二伸長期に比すれば丸く且つ充滿してゐる。性的特徵は未だ明かに現はれてゐない。

されるにも關らず、女子にありては子供らしい體容と共に時としては既に甚だしき女性的特徵が現出することがある。此の頃に至ると骨格は强固となり殊に脊柱の生理的彎曲が固定し始めるのであるから常に良好なる姿勢を作ることに留意することが肝要である。

此の時期の子供には遊戲の競爭及び獨斷をする個人主義的傾向が强く現はれ、社會に對する理解は充分には持たないが、前時期に於けるよりは稍社會的關係が密接になる結果として自己の優越を示すことに熱心なる利己的な又無法な個性を生ずる。或者は「此の時期の終りに近く十歲頃になると通常兩親や教師等が惡いことだと言ひ卑陋なことだと思ふことは、その大多數は經驗しなければならない。惡罵も試みなければならない、爭鬪も試みなければならない、他人を鞭撻し又自ら他人に鞭撻せられるゝことをも試みなければならない、良友と交つて益せらるゝと共に、又惡友について學ばなければならない。所謂劣惡な行は此の時に於て其の幼弱な形で發現を恣にせしめて以て少年をして後の時期に於て之れに對

する道徳的免疫性たらしめなければならない。斯くしたからとて彼等は決して墮落したのではなく、彼等は只野蠻の段階若しくは半動物の段階にあると言ふに過ぎない。而して此の段階にある子供が苟も自分に不都合なことをすれば凡て之れ

第二十三圖
十歳の少年少女



之れは標式的體型を有する少年・少女である少女は乳房及び臀部等に於て女性的特徴を明かに現はすものは寧ろ早熟であつて、玆に現はれたやうに表情及び態度は全く子供らしく、上腿の充滿せる以外何等性的特徴を現はさない者が一般普通である。

を悪名を以て呼ばふとするやうな人を除いて、強大な腦力と寛厚な心情とを有する眞に親切なる人の眼から觀るときは、之れは全く愛すべく且つ深く興味を惹き起すべき段階であるべきである。吾人が少年時代を知ることが愈々深くなればなるに從つて、成人の少年に對する理想の偏狹であつて、然も往々私欲的であることが益々明かになるであらう。若し此の時期の子供が性質善良、勤勉であつて深思、博愛然も寧靜慇懃、恭儉、柔順、沈着にして秩序正しく、常に容儀を修め、常に理性に順ひ、不良の說話を避け、同年よりも寧ろ長者を友とし、卑陋の者と交はることなく、雅正なる言語を操り宗教上の儀式を好みて虔信の念深きものがあるならば、斯の如き少年は活力少く、天性早熟のため、若しくは他の壓迫のため化成した僞善者にあらずんば、必ず多少之等の諸件を具有せる或種の天才であらう。之れを以て正常な少年の模範となすべきではない。」と言つてゐる。此の時期を通じて一般に子供は或意味から言ふと惡まれ者で愛らしさを缺くと言ふ觀方も出來るけれども、よく子供の自然の心的傾向を減殺せしめざるやうに充分の注意を拂ひつゝ、然

も能く長者の權威を以て子供を指導し、教示し、彼等を驅ること羊を牧するが如くするは正に此の時期の子供の良教師と言ふことが出來る。

此の時期の子供にも遊戯は依然として大切なものであるが、環境の影響も亦甚だ重要である。普通の子供は不幸にもかゝる幼少の頃からベースボールやフットボールをするやうに決つてゐる。ベースボール・フットボールが學校に於て少年に對して與へられる唯一の遊戯であるとは誠に以て情無い次第である。ベースボールやフットボールには巧みなものがあると共に拙い者もある、その巧みな選手とも言はれる小さな英雄共を見るのは華かな光景であるが、一方、一向振はない者が其等英雄に交つて遊戯してゐる樣は寧ろ悲慘である。此の年齢の子供の遊戯にはもつと他に種類があるべきである。此の頃の男の子供は海賊とか强盜とかになりすまして、少年時代の眞の遊戯を熱心にやる。此の時期の女の子供は歌遊びには趣味を持たなくなり、人形遊びの時代はその絶頂に達してゐる。アリス、ラヴエンヒル孃が子供に「好きな玩具」に關し質問をなした結果を見ると、八歳の少女には人形の興味が一番强いことを示してゐる。三歳から十三歳迄の女の子總計四二〇二人に就いて、人形を一番好愛せる玩具として選擇する者は六〇パーセントを下らない。(但し、十三歳の少女の場合は例外で五五パーセントであるが)女の子供は手を繼いで輪を造つて立つてゐることが、元來、其れ自體一つの遊戯であるやうな時期は既に去つてゐて、男の子に較ぶれば社交的ではない。

此の時期に至ると一つの美的感覺が出現して、美の範圍が廣められ人形を選ぶにも美はしい黑髮とか容貌とかを標準とするやうになる。自己と言ふものは非常に早く成長するが、社會的には未だよく調和されないで我流とか、獨り決めとか言ふ自己を强く主張することは九、十歳の子供の特徴である。此の特徴は少女の場合には概して「僕は君よりは遠くに投げることが出來る」と言ふやうなことに現はれるし、男子の場合には衣服に關することや、他人と衣裳較べをすることに現はれてゐる。是等の年齢の子供には愛寵物としては有益なる玩具を與ふべきである。

子供は十歳になると自分の遊戯に對して、より手のこんだ玩具を要求するのが普通である。彼等は實際の事物即ち、パラ彈を發射する空氣銃帆掛船懷中小刀等の必要を感じて來る。吾人は之れを獨り決めの時代及び懷中小刀の時期だと言へば言ひ得る。

此の時代には時によると活潑な遊戯を好むことが稍々少くなることを見出すことは珍らしくない。前にも示したように、肉體的には此の時期は生長發育の鈍い時期で、心筋の發育に比例して心臟に對する活動力の要求が增加し、並に第二の生齒期に伴ふ障碍が起り、尙次の時代に於て著しき發育を遂げんとする準備のために一時發育が停滯する等が其の原因となることを慮る可きである。又、此の時期の子供には個人主義、競爭、張合、獨斷等の本能が強く現はれるのであつて、遊戯を指導する場合には、是等の諸性質のことを考慮せねばならない。運動競技に力を入れ過ぎるのは、九十歳の少年に非常に有り克ちだが、此の時代には競爭とか、興奮とか、體力の不等の發達とかを考慮して、餘り强い運動や餘り長い競走などをやらせることや、午後二三時間に亘る仕事を續けて行はせることは避けねばならない。男の子にとつても、女の子にとつても此の時代は一つの過渡期である。即ち、兒童時代の變遷期であつて、兒童期の絕頂に達する準備時代であり、此の時代の特徵とも言ふべき加速度的大發育に對する勢力の集中時代であるから、此の時期に於ける運動遊戯に關しては過强に陷り過勞をなさしめざるやうに充分注意しつゝ、前の時代よりはより多くの種類の樂しき遊戯をとり入れて呼吸及び血行を盛んにし、物質代謝を促進し、各方面の成長を促すやうに身體各部の習練をなし、廣い範圍に亘つての精神陶冶となり得るやうに指導すべきものである。

而して此の時期に適應する主なる遊戯の種類を擧ぐれば大要次の如くである。

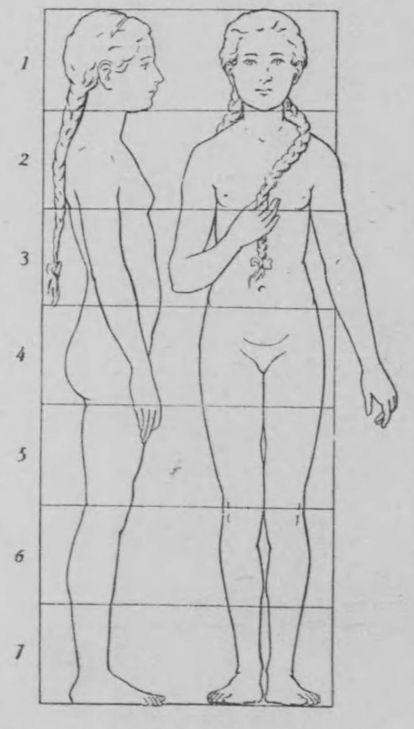
動物遊、　猫と鼠、　鶴亀遊
日月遊　綱引　達摩落し
ジアンケン戰　鉢卷取り、　帽子取
旗送り、　球運び　大球廻し

ボール送り、　源平毬入　追入ボール
腋下拔　對フツトボール。短距離リレーレース、
輪拔リレー、　オールアツプリレー、
子殖鬼　懸鬼　西洋鬼
カラカヒ鬼　輪綱鬼　子取鬼
輪廻し、　竹馬　凧上げ、
綱飛び、　羽子　マヽゴト、
人形遊び　お手玉　おはじき
水泳、　二人三脚
關門通過　萬里の長城　ボール合戰
片脚相撲　攀登競爭　蛙飛
ドッヂボール　カンガルー、
シーソー

池の鯉、　桃太郎　飛び來るとんぼ等の唱歌遊戯
行進遊戯の初步

第五節　第三遊戯期(十歳より春期發動期迄)

第二十四圖
例比體身の兒歳二十



Geyer 氏の測定によるもので身長 142cm で頭高の七倍胴は頭高の 2.3/4 倍.臂はその3倍.脚はその 3.1/2 倍である男は身長は女に劣る。

春期發動期は男女兩性によりて異なるのみならず、又、各個人によつて多少の差異はあるもので之れが年齢を劃一的に定めることは困難であるが十二三歳より

十四・五歳の頃と看做すことはあながち不當ではないと考へる。隨つて第三遊戯期は前に述べたるが如く、大體發育期から言ふと兩性兒童期の第二伸張期に相當するものと見る。

此の時代に於ける身長は前に示せるが如く男子は三尺九寸八分より四尺八寸

第二十五圖
十二歳の少年

本圖は體格よき十二歳の少年を現す。彼の強き發達を始めた筋肉と角々した體型とは少女と異なつてゐる。然し全體の印象は尙子供らしい。

五分に伸長す、女子は三尺九寸三分より四尺七寸七分に增加し、然も十二歳より十四歳迄は女子の身長增加は男子をしのぐといふ事實を示す。それは男子にあつては、十歳に於て四・五糎、十一歳に於て四糎、十二歳に於て四・四糎の增加を示してゐるにも拘らず、女子に於ては十歳に於て四・七糎、十一歳に於て五・六糎、十二歳に於て五・五糎と言ふ男子に比して遙かに著しい增加をなすことに依るものである。十三歳以後に於ては年々の增加は前と反對に男子は女子よりも遙かに著しい增加をなすが故に十五歳に於ける男子の身長は再び女子のそれをしのぐに至る。而して、全身長は頭高の六・五倍から七・五倍に變化す。體重は男子にありては六貫百四十六匁より十貫四百五十七匁に增加し、女子は五貫九百七匁より十貫五百六匁に增加す。然も十三・四・五の三ヶ年間は女子の體重は男子のそれにまさることを示してゐる。それは男子は十歳の時二瓩、十一歳で二・一瓩、十二歳で二・五瓩十三歳で三・三瓩を增加するにも拘らず、女子は十歳で二・一瓩、十一歳で二・四瓩、十二歳で三・二瓩、十三歳で三・九瓩といふ男子にまさつて著しい增加をなすことによるもので

第二十六圖
十四歲の少年

標式的發育をなせる十四歲の少年である。筋肉は强壯に、肩や胸は廣く發達して男性的特徵を現して居るがまだ大人と言ふよりは尙子供らしさを失はない。

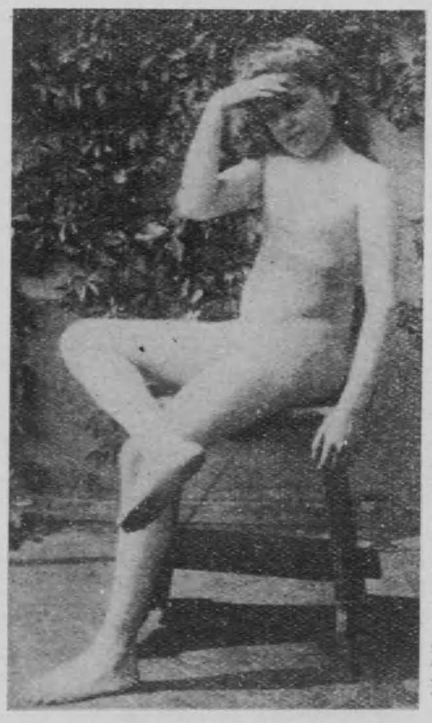
ある。然るに十四歲以後になると男子累年の體重增加は女子のそれに增加するがために、十六歲に至ると男子の體重は女子のそれを再びしのぐに至る。胸圍は發育旺盛なるも肺活量と共に女子は常に男子をしのぐことはない。

此の時期は兒童期の黃金時代である。此の時代が一番活氣ある時であり、生長力は急激に增大し、內臟諸器關は著しく發達し、大筋群の發育も疾病に對する抵抗力も最も大なる時であり、他よりの拘束を脫すること及び遊ぶことを一番望む時期であり、最も活々した時代である。個人的時期は過ぎ去つて、社會的關係を從來よりはよく理解するやうになる。正義のためには自己をも屈服せしめるといふ考が、此の時期の子供の遊戲に現はれて來る。そしてその考へはだん〳〵と子供の心に培はれるので、尙、依然として個人主義の看守と爭鬪はあるけれども、忠節を義務とすべきことも理解される。

十歲が過ぎると間も無く子供は遊戲に於て正義のためには、自己をも犧牲にすると言ふ義務を表示することに依りて、極端な獨斷といふことが一般には和げら

れ得るものである。而して此の精神はよく養成すべきもので、此の精神がなければ極端な利己主義が、子供本來の利己主義の上に永久に形造られて仕舞ふ危險がある。此の時期は何はさて置き、活氣ある走り遊戯を男女何れにも行はすべきである。ルーテル・ギューリック博士　Dr. Ruter Giulick（嘗て、紐育の文部省の體育指導者たりし人、遊戯の哲學の著者）は、紐育市のランニング及びジアンピングに於て十歳より十二歳までの女の子の最優秀記錄を同年齢の男子の最優秀記錄に負けないやうに援助しよう」と言つたことがある。男の子の普通の者でも勿論女の子には勝てるから、百人の優良の女子は百人の優良の男子に對して勝味はない。然し、活潑なる遊戯例へばランニング、ジアンピング及び本登等の如きは肉體的發達の見地より此の時代の少女にとつて、一番價値あるものであることを考へて、之れが指導に當るべきである。然るに不幸にして此の時期には、多くの親達が衣服を長くしたり、禮儀作法を教へるのが必要だと考へてしまふのである。成程其の考へも正しいが、然し、自由及び運動の價値

圖七十二第
女少の歳一十



此の頃の少女も子供らしき體型を有する者が多い。此の圖に現はれた少女は丸き股と充滿した脚を除いては體型も態度もよく子供らしさを示してゐる。

圖八十二第
女少の歳四十

乳房の隆起は乳腺の著しき發達を示し、身體全體に於ける性的特徴は既に丸味ある豐滿な體を現はしてゐる。

といふものに意を拂ふべきである。いかに此の時期の少女に活潑な運動を奬勵したとしても、自然の神は間もなくお轉婆娘をも若い貴婦人にして仕舞ふといふ事實に着眼すれば、餘りに早くから抑制するのは、却つてその發達を不完全にすることになつて餘りに情無いことだと考へる。

此の時期の終りの特徴ともいふべきは、社會的關係の理解が一層進められることである。例へば「おとうさんは不思議なお「役所」で何をするのだらう？」「何故お父さんは毎朝九時三十分の汽車に乘らなければならないのだらう？」「一體誰かお父さんにそうさせるのだらう？」「お父さんは卷煙草を吹かしてゐるのに、庭園師は何故草を切つてゐるだらうか？」といふやうな疑問を起し、然もその回答を誰かに求めて解決しようとする。又自分等と成人せる權威者との關係を吟味せんとする欲望があるし、自ら他の長上者として待遇せらるゝを望み、自己の未來に對する計畫を立てんと欲し、成人者の賞譽又は非難に對して特に鋭敏に感動するやうになる。

親達は之等の傾向や態度が子供を教育する上に適切かどうか、又之等の環境を利用してしつかりした教育をしてゐるかどうかをいつも考へなければならない。子供は決して躾けを嫌がるものではない。適當に躾をすると子供は嚴格なる社會組織に於ける感情は却つて愉快な感情として受け容られる。

規則に對して服從し尊敬することを教へられてゐない甘えた子供は、惡戯が好きである。此のいたづらといふ形式は一つの遊戯とも見られる。一つの些細な惡事をすれば、それが原となつて尙進んで他の惡さをし、遂にはほんとうの惡戯者となつて仕舞ふ。その惡戯が成功する毎に益々其の子供は墮落して仕舞ふ。而しておまけに益々憐むべきものとなる。一つの亂暴からもつと惡い亂暴を仕出かすやうになる。之れは子供にとつても親にとつても品位を墮す遊戯であるから親達は決して惡戯を子供に許してはならない。而して一面惡戯を行はないやうにすることは規則をよく守らせる習慣をつけ、規則は尊敬すべきもので團體生活に於ては缺く可らざる重要なものであると言ふ觀念を作ることが必要である。

それには相當こみいつた規則によつて支配せられる團體遊戯を適當に行はせるがよい。

十歳より十二歳頃の子供は之迄よりはずつと子供らしくなり、其後になると又少しく子供らしさが失せるものである。あらゆる種類の遊戯を一番よけいに好むのは、此の時期の子供である。遊戯か何等か價値を持つてゐるものとすれば、どんな遊戯でも利益がなければならぬ。あだかも、自然の神が子供に向つて「私はあなたに二年若しくは三年をあなた自身のものとしてあげますから、あなたの好きなやうにお使ひなさい」と言つたかの如くである、此の二・三年は機會の年である。如何なる機會かと言へば、熟練の獲得、習慣の作成及び性格の基礎を作る機會である。大切な時期を前に控へた此の小憩の期間に於ては、あらゆる種類の本能を適當に指導し、あらゆる興味は將來有用なやうに養成すべきである。現在熱心に耽る凡ての活動は將來の何等かを意味するものである。記憶判斷理性は此の期間中に構成される新らしい能力である。是等の能力が健全に成長し、平衡を得るためには健全なる練磨を要する。例へば、此の時代の少年は前に擧げたやうな諸能力は發達し、理解力も相當發達して來るにも拘らず、自分が判斷したことや、理解してゐることを他に發表し、說述することは極めて拙劣であるやうである。此の際強いて過度に精確を責むるは、精神の萎縮を來し、之れがため精神上及び道德上習得したことも余り深處に沈み去りて何等知力及び意志の障碍なきに拘らず、必要に際して直ちに之れを思ひ起すことが困難となる。これは實際見受けることで少年が競技の審判者となつて小さき審判者は誤審のないやうにと今迄習ひ得た規則は勿論、實際に適用することまで熱心に眞面目に審判を續けて居たが、彼の審判が一つの問題を引き起してそれに關して質問を受ける、彼自身の頭の中ではその問題についての嚴正な判斷がされて居るにも拘らずどうしてそれを言ふことが出來ない、そうして質問急なるに及んで益々困却すると言ふやうなことがある。

若干の子供には、此の時期に讀書熱が起り此の讀書といふ世界に於て、他のあらゆる物よりはより貴い理想が形成され發達する者がある。併し、概して言へば、此

の時期には元氣ある遊戯を徹して練磨され發達されるのである。

次に此の時期の子供の美的情緒を發達させるところの想像力の訓練に關して一言しよう。想像力の訓練に於ては、事物に直接基いて訓練するのは不可能である。併し環境例へば、よき音樂會、美しい繪畫丘上からの眺望、湖上の夕陽等によることはよいことである。此の頃の子供は自然に對する愛は生じ、音樂は一種新たなる且つ一層神秘なるやうに感ずるやうになるし、繪畫や、彫刻や自然の風景等に對して想像を逞ふするやうになるから、吾人は此の性質此の芽生えを利用し培つて行くために、唯、子供等を廣い草原に連れて行つて默つて見てゐるだけでよい。然も吾々は彼等の眼の前に展開される美麗な事物の範圍を充分擴大することに努めさへすればよい。斯くして置けば屹度、此の時期の子供から或る答案を得るであらう。吾々は美を教へることは出來ぬ。たとへ美を指示したからとて美的情緒を養成することには何等効果なきことである。けれども美といふものを含蓄してゐる範圍内に子供を連れて行き其の美の中に包まれて快く遊戯をするやうなことは可能である。兒童期の黄金時代に於て、美に關して無關心であらうとも何等失望落膽には及ばない。美術の一番最初の鑑賞は必然的に次の期間に屬するもので、此の時期は唯、準備期で音樂、形式、色調の美に對する興味は屢々此の時に現はれる。是等の趣味の現はれたときに是れを養ふことは緊要なことである。養はなければ、是等の興味は永久に消失し克ちなものである。之れに對する正しき處置は、時期が來たときには何時でも之等の趣味に機會と奬勵とを與へることの出來るやうに準備して置くことである。

而して、是れは凡ての期間に於ける遊戯を指導する上に心掛くべきことである。

此の時期の子供には、腹筋及び背筋を特に强め、胸廓の發育を促進せしむることが肝要である。此の時期の始めより注意深くして冷水浴の如き身體鍛錬を漸次加へることは良いことである。而して更らに進んで運動の持久力を養ふやうに心掛くるも有効である。又動作の巧緻及び熟練性の練習をなさしめ併せて勇敢の氣象を漸次養成することに良き時期である。殊に留意すべきは此の時期の始

めに於て、脊柱の生理的彎曲が固定するのであるから、此の時に於て良好なる姿勢を作ることに意を用ふべきである。此の時期に不良な姿勢を矯正しなければ、其の後に於ては甚だ困難となるものであるから、遊戯競技を行ふ時のみならず、凡ての場合に於て姿勢を良くすることに注意せねばならない。

此の時期に適する主なる遊戯を擧ぐれば次の如くである。

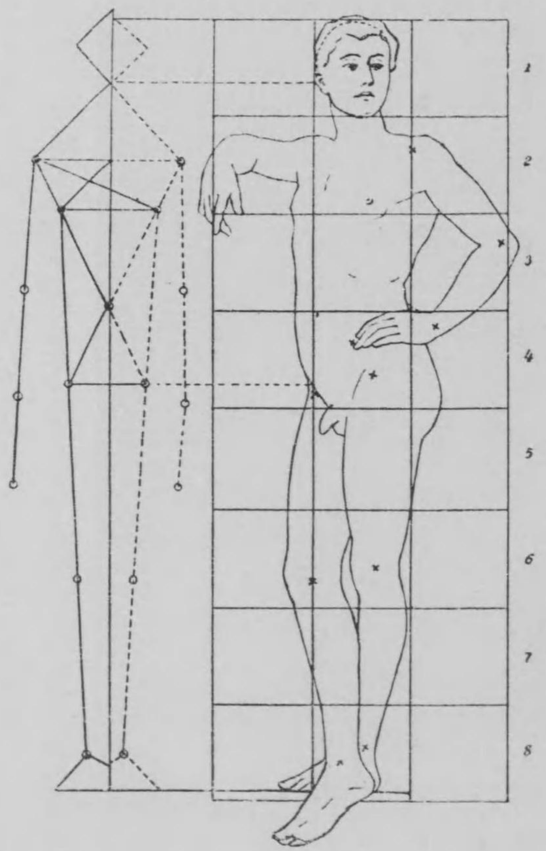
ボール合戰、　兩面ドッヂボール
混合ドッヂボール　ドッヂボール、
キックボール　ストライキングボール
リングボール　センターボール
キャプテンボール　攻城ボール
バスケットボール　フットボール
バッスボール　プレイグラウンドボール
コーナーボール　開閉リングボール
這入リングボール　メヂシンボール
ヴォレーボール　ベースボール
テニス、　ピンポン、
人送り、　押出し
蛙飛　棒引
棒押　白兵戰
足切競爭　軍艦遊び
引合競爭　一人一脚
騎馬戰　布引
障碍物競爭　追ひかけ帽子取
走幅跳　走高跳
ホップ・ステップ・ジアンプ
砲丸投　圓盤投　バスケットボール投

矩距離競走　中距離競走　長距離競走
ハードルレース、　リレーレース、
サークルリレー　トリツプリングリレー
スロー・アンド、　キャツチボール・リレー
競泳、　遠泳、
鮫鬼　西瓜取り、
寶探し　潜水競爭
龍戰　筏爭ひ、
雪滑り　雪合戰
スキー
ボテトーレース
行進遊戯　體育舞踊の各種

第六節　第四遊戯期(春機發動期より丁年迄)

此の時期が始まると共に兒童期は終りを告げる。即ち、子供は新らしい趣味新らしい理想を持つて新生命の入口に立つてゐるのである。どの親達も此の重要

第二十九圖
例比體身の年青の歳八十



なる變化と、その影響や結果に就いてよく知らねばならない。青年期に關するスタンレー・ホール博士 Dr. Stanry Hall の模範的の著作「青年期」に於て其等の諸相を取扱つてゐるから、どの親達も繙くべきものである。

圖十　女處の歳六十

子供を小さき大人と見做すやうな間違つた考を懷いてゐる人は、此の不思議な期間の重要性的差異を現はしてゐる。その體型はよく性的差異を現はしてゐる。

第三　青年期の歳七十

此の兩者は何れも標式的發育をしなことは身に泌みじみと感ずることは出來まいが、子供をよくよく知る人は兒童期から青年期に至る間の變化の重大なことを理解するであらう。此の時期の眞の新生命なるものが始まると共に、過去の調和は破られ、新らしき感情思想が突進して從來の觀念を遺憾なく混亂させる。是等の現象は決して不思議ではない。多くの子供の場合に於て斯くの如き變化は、十四、五歳の頃から起つて來る。

此の時期に於ける身體發育は一般に此の前の時期に較べると量的に於ては劣

つてゐる。體重の如きは發育は尙旺盛であつて十六歲に於ける增加は男子は四・九瓩、女子は三・三瓩を示してゐるが其の後漸次減少の傾向を生ずる。身長の增加は十六歲の頃の男子は尙增加著しく五・三糎を示してゐるが、其の後は漸次減少し、女子は著しい減少を示すに至る。腦その他の內臟諸器關の量的發育も漸次增加の度を減少するが、質的發育は益々その度を加へ生活機能は益々旺盛となる。筋肉の如きは量的の發育をなすと共に質的發育著しくして、筋力の增加はこれより一層顯著となり二十五歲から三十歲の頃に於て最大である。筋は生體が有する勢力の極めて多くの部分を消費するものである。然るに隨意筋に對する腦中樞は腦の大部分に撒布するを以て筋の發育は同時に腦の構造を完成せしむるの結果を生ずべし。筋は又消化作用に對して頗る重要なる關係を有するもので、或る意味に於て之れを消化の機關と言ふを得べし。筋は又最も緊密特殊なる意義に於て意志の機關である。凡そ人類が物質に對して成し遂げた一切の事實は皆筋の力によつて行へるものに外ならない。若し筋が發達しないか又は其の作用が遲鈍である時は意志と實行との間に大なる罅隙を生ずるに至るであらう。加之近世心理學の說く所は筋は實に精神の一切の外發的過程の表出機關であつて、注意の變化其の他あらゆる精神狀態の變化は何れも無意識的に筋に影響し、筋は其の度每に極めて巧妙に其の張力を變じて之れに應ずるものである。即ち筋は啻に意志の機關であるのみならず又思考及び感情の機關である。フェレー Féré 氏に據れば物質に及す力は單に筋力のみならずして、精神の力と平常の勇氣との合成力と見るべきものであつて、敎育ある者は此の力に於て却つて無敎育の勞働者に勝ると言つてゐる。又田中寬一博士の調査によると握力の增加と知能の增進との間に密接なる關係のあることを示されてゐる。此の意味に於て靑年期に於ける筋力の增加は精神作用の增進を促すものと見ることが出來る。此の時代に於ては殊に筋に對する習練は敎育上極めて主要なる意義を有してゐる。循環器の如きは前にも述べたやうに、心臟の大さと血管の大さ、血液量の增加及び體溫の上昇等の關係から、之等の間の平衡が破られると共に、身體各部に於ける平均も破

られて各々特異な發達をなすものである。

精神は肉體の各部と共に發達するものであから、その發達は決して連續的、整一的、平均的のものではなく、時々結節を有する發達をなすものであることを知る。故に各部の調和は破られて各部が全體の牽制を受けずして獨立に變化すること は、實に此の時期であつて前後の時期よりも比較的變化に富み、且つ陶冶を受け易き特色を有してゐるから、此の時期は精神的に極めて緊要な時である。「青年は新しき世界に目覺めるが、其の世界に就いても亦自分自身に就いても了解しない」と言はれてゐるが、此の頃の青年の凡ての感覺は著しい變化を受け易く、且つ新しい感情は抑へきれない強さで後から後からと起つて來る。斯くて此の頃の感情は不安定である。英雄崇拜の念は心頭に起り、遊戯競技に於て、或は精神上の競爭に於て他人を凌駕せんことを望み、絶えず不安思慕の情に驅られてゐる。青年の好む所は精神の激昂せる狀態であつて、安靜なる快樂の如きは之れを喜ばず、他人と爭ふことを好みあらゆる奮鬪的生活を好む。内省及び自覺への一般的傾向は著しい特徴であつて、是等の内省及び自覺は興味を自己よりまぎらはす活動的遊戯によりて一番よく統制せられる。青年男女に共通なる英雄崇拜は又内省及び自覺を統制する助けとなる。此の時期の始めに於ては男の子も女の子も多くは自分の興味を遊戯競技の實施及び彼等が崇拜する英雄の勇敢なる行爲に集中する。成年者の感化影響は此の前の時期に於ては至つて少いが、此の期に入ると最高頂に達し、親達が子供の文學、科學、藝術等に關する永久の趣味を決定すべき機會である。又此の時期の青年には最も厚き友情が起り、親友が欲しくて欲しくてならなくなる。それは作業及び遊戯の共通趣味の中に形成せられるものである。尚又友達然も年長の友達を求めるやうになる。

此の時期の男子にとりての自然の友達は其の父であり、女子にとりてはその母である。若しも親達が自分の子供の信頼を此の時期に得なかつたなら、その信頼は永久に得られないのが常である。

此の時期の始めに於ける性の目覺めは、異性を或る程度まで遠ざけようとする

もので、男の子も女の子も以前には一緒に遊んでゐたものが、此の前の時期の終り頃からは相互ひに同性の仲間へと退く、概して言へば、女子は活潑なる遊戯に興味を失ひ、空想や讀書に多くの時間を費すやうになる。而して自然及び動物に對する目覺めたる愛より多くの事がなされるかも知れない。此の頃の女子には原野や山間に出掛けて標本を集めたり、愛用の動物を飼育したりすることをすゝめると共に、ホッケーやテニスの如き活潑な遊戯を奬勵することも必要であるが、過度に亘らないやうに注意することが肝要である。殊に此の時期は試驗勉强とか凡てに優越しようと努めるとか、或は名譽、賞與等を得んとする觀念が非常に强くなつて來るため、それに伴つて過度な働きを爲し克ちになるからそれに對して相當の注意を拂ふべきである。一週間に四十時間以上の勉强をしてはいけないし、毎夜八時間乃至九時間の睡眠は必要である。

シァーリーブ博士 Dr. Shaleav は丁年に達せる女子の娯樂的遊戯に注意を向けて、水泳、漕舟、自轉乘殊に團體競技の總ての形式例へば、ホッケー、バスケットボール、等の如きを推薦してゐる。彼女は「女子が缺いてゐると思はれる性質殊に名譽に對する團體的觀念及び團體的非利己主義は團體的競技が適當に行はれる時は必ず發達する性質である」と言つてゐる。是等の競技の外にフォークダンスは健康增進及び精神陶冶に資する所大なりとして凡ての專門家に推賞されてゐる。又當を得たる體操は非常に肉體的發達に有益であつて、此の期間の女子の多くは適當な人が指導するときは喜んで運動をするものである。紐育の公立學校運動聯盟の女子部は女子競技に關する優秀なる小冊子を發行してゐる、此の中にある女子競技の組織に於ける此の團體の主義政策を累記すれば次の如くである。

一、公立學校の凡ての女子には運動競技を奬める。

二、競技運動は校内の競技であつて、學校間の競爭はしない。

三、團體競技をより多く奬勵すること、

四、奬勵すべき競技は女子に對する適應性に關して選擇し、且つ練習せらるべきものであつて、單に男子の競技の模倣にあらざること。

此等の四つの主義は非常に健全のやうである。然もこれが嚴格に行はれてゐるとのことである。紐育の教育局は公立學校運動聯盟の女子部の事業に對してあらゆる機會を與へて援助してゐる、而して紐育の教育局は書記官のバーチエル孃を公立學校の運動視察官に任命した。玆にバーチエル孃のものした一論文より女子に適したる運動の表を引用して見ると左の通りである。

一、若き女子に對するもの、

丸木舟遊び、　舞踏　乘馬
漕舟　競走(百碼を超えず)、スケート
遊泳　散歩

二、成熟した女子に對するもの(十五歳以上)

弓術　籃球　ホツケー
ゴルフ　高跳　ローバードル
競走(百碼を超えず)　テニス

三、成熟した女子を健康に保つ運動

丸木舟遊び　舞踏　漕舟
游泳　競走　散歩
登山

此の頃の青年には自然に對する愛情が濃やかになる。青年の精神の最善なる要素は自然に對する愛情に負ふ所が、如何に深く且つ大なるかは從前多くの人々の理解する所とならなかつたやうであるが、それを物質科學の諸大家の傳記に徹するに、世界に於ける人間の最大事實である彼等科學者の創見發明は何れも其の始め、彼自が各自特別の領域に於て最も熱烈に自然を愛せし結果に外ならない。自然に對する愛情は實に彼等の學術上の一大事業の第一衝動であつたのである。それは科學界に於てのみならず、美術に於ても文學に於ても亦然りである。故に此の時代の青年には海に行き山に登りて、自然そのものに親しみつゝ、探險的欲求及び冒險的欲求を滿足せしむるやうな機會を與へると共に適當な指導をなすこ

とが肝要である。

青年期の運動として冷水浴及び水泳の體育上の價値は擧げて說く可らざるものがある。冷水浴に於ては一部分は寒冷の感覺のために皮膚及び其の直下なる組織に於ける毛細管の收縮するがために、又一部分は皮膚面に於ける水の壓力のために血液は身體の內方に送りこまれ、腎、肺、胃、腸等の內臟機關の活動の增加を來す。又冷水の反應のために皮膚が紅色を呈するは皮膚に於ける血液循環を盛ならしむるものであつて最上の强壯法である。デユ・ボア、レイモンは「水泳は皮膚の體操である、水浴は全身皮膚に著大の强健を附與し、老年に至るまで尙靑春の徵たる緊張した皮膚を保たしめる」と言れてゐるが、斯ふして鍛錬された皮膚は急速なる體溫脫失に對して殆んど免疫となり、感冒に對し最上の保護をなす。吾々が冷水浴を行つた年の冬には感冒に犯されることの少いのは之がためである。感冒に起因する疾病で仆れる者の數は甚だ多いのであるから、感冒を豫防する効著大な冷水浴は惹て國民の健康度を著しく增進するものであると言ふことが出來る。

且つ拂拭摩擦によつて皮膚面の排泄物や塵埃その他の附着物を除去するがために、皮膚の機能を完全に保持する所の大なる効果がある。而して冷水を行ふに、曉寒を侵して冷水中に突入するは、實に辛苦に耐へ艱難を冒すの精神を養成するの益がある、其の道德的効果は頗る著しものである。

水泳は單に之れを運動の方式として觀るも、此の運動は他の運動遊戲に於ては容易に見ることの出來ない種類の運動であつて、此の點に於て一種無類の地位を占有するものである。水泳が心臟肺臟に及ぼす影響の良好なことは旣に一般に認められ、又消化器關の機能を增進し、新陳代謝作用を高上せしめ或は精神を爽快に、剛毅に、勇敢に大膽に豪壯に或は決斷力の養成に與つて力大なるものあるは須知のことである。其の他性的器關の充血を醫するに迅速直接の効を奏することは亦之に若くものはない。單に衣服を脫し海岸を馳走してすら旣に快活と自由との感を與へて健康上利するところが極めて大である。水泳は靑年期の男女何れにも價値ある運動であるが殊に、我が國靑年女子の健康は極めて不良であり、特に

夏季に於て不良であつて死亡率の大なることは先年内閣統計官二階堂氏の統計上より證明したことである、而して同氏の統計上の推定にすれば、これは我が國女子の體力が夏季に於て特に衰弱するからであると言つてゐる。此の點に鑑み吾人は特に我國青年女子の夏季體育法として大いに水泳を奬勵すべきものであると信じ、普く女子教育家の努力を望むものである。

脚部の運動は青年の運動として他の體部の運動よりも更に高き價値を有するものであらう。人類は直立する動物であると言はれるが、其の直立運動は實に長年月の修練を經て修得せられたものに外ならない。斯くて脚は手の助けを藉らずして能く身體移動の運動を行ひ、手をして專ら精神作用に隷屬せしむるやうになつたのは脚運動が人類進歩の上に少からざる利益を與へたと見るべきである。又脚の運動は近世産業の盛なるより生ずる弊害を救治するの効がある。又徒歩・疾走・舞踏・滑走等の諸運動は青年期に於ける性慾發動の方向を轉ぜしめ且つ之れを整理する効がある。近世學校に於ける作業は手の運動に屬するものゝみ多きの弊がある。又專ら座業にのみ從事するものは往々感情及び思想に於て偏固であつて激し易き性癖を生ずる傾がある、是等は何れも脚部の運動を盛にして救治せらるべきものである。

又、クリッケットやフットボールの如き活潑な遊戯は此の期間に於ける理想的のものであるから、これによつて活動性を養ひ、巧妙な懸垂運動や擊劍、柔道等によりて機敏性・巧緻性及び膽力を養成し、マラソンの如き永續運動によつて持久力の增大をはかり、重錘投・鐵亞鈴・相撲等によつて筋力を增大せしめ、或は疾走技の如き急速運動により急速力の增進を謀る等あらゆる方面の體力を此の時に充分增大せしむるやうに努むることが肝要である。尙青年期に於ては趣味は豊かになり嗜好も多くなるものであるから、それ等の趣味や嗜好に從ひて適當な遊戯を選び、以て高尙な趣味の養成、嗜好の修養に資すべきである。而して、青年期に適用さるべき遊戯競技の主なるものを擧ぐれば大要次の如きものである。

相撲　擊劍

柔道　弓術
乘馬
スキー　スケート
競泳　遠泳
潛水　水泳飛込
水中諸遊戯
ボート　漕舟
登山
撞球　ピンポン
ラクビーフツトボール
アツソシエーションフツトボール
野球　庭球
ホツケー　ボーロー

短矩離競走　中距離競走
長距離競走　リレーレース
砲丸投　圓盤投
槍投　ハンマー投
走幅跳　走幅跳
棒高跳　綱高跳
ハードルレース
舞踊の各種

青年の遊戯を論ずるに當つては異性の勢力が精妙にして然も强大に作用して居ることを看過することは出來ない。鳥獸に於て雄が其の羽毛の美、筋力の大を以て雌に誇示して愛戀の情を通ずるの具となすが如き、又猫が鋭い爪を以て木に傷をつけ、鼠が齒牙を以つて柱などをかぢるは唯に爪をとぎ、齒牙を磨り減らすためのみでなく、自己の力强さを雌に示す一手段であると言はれてゐる。これは野